

2011 年度中期目標年度計画 取組結果報告書

はじめに

- Cornerstone 1 キリスト教精神の浸透
- Cornerstone 2 教育研究活動の充実
- Cornerstone 3 高度に国際化された教育システムの確立
- Cornerstone 4 地域貢献力の強化
- Cornerstone 5 学生・生徒支援体制の充実
- Cornerstone 6 ブランドの構築
- Cornerstone 7 本学園が望む学生を確保する仕組み
- Cornerstone 8 アカウンタビリティの確保
- Cornerstone 9 組織機構と人事管理の改革
- Cornerstone10 健全な財務の構築と維持
- Cornerstone11 質量両面でのキャンパス高度化
- Cornerstone12 情報システムの高度化

2012 年 4 月 1 日

学校法人 桜美林学園

はじめに

学園では、来るべき 2021 年の創立 100 周年における、あるべき姿をミッション・ステートメントとしてとりまとめ、2014 年度までの期間を長期ビジョン実現のための基礎固めの期間として位置付けるとともに、この期間、目標とすべき 12 の課題（コーナーストーン）を設定した。

この目標実現に向けて昨年来、目標の年度計画の策定、検証、検証を踏まえた次年度計画の策定等、いわゆる PDCA サイクルを確実なものとする努力を傾注してきたが、昨年 3 月 11 日の東日本大震災により、我が国の産業構造をも含め甚大な被害がもたらされ、その影響は学園が策定した特定の中期目標にもおよび、学園の努力の限度を超えた課題と考えられるものも少なからず浮かび上がってきた。

このように目標の実現に厳しい環境ではあるが、「爲ん方つくれども希望（のぞみ）を失はず」の精神と、学生・生徒・園児が主役であるとの認識のもと、目標実現を信じて引き続き努力を傾注していかなければならない。

理事長 佐藤東洋士

目次

Cornerstone 1 : キリスト教精神の浸透

1. キリスト教理解の深化
 - ① 教職員の研修機会の提供（キリスト教の基本的な教え、世界の文化社会への貢献についての理解）。教職員一人ひとりがロールモデルとなるように。..... 1
2. 外部キリスト教組織との連携
 - ② キリスト教学校教育同盟、キリスト教系教育組織、教会との結びつきをグローバルに展開する。..... 3
3. 宗務組織の充実
 - ③ 宗務部（現キリスト教センター）の組織、役割等を明確にし、活動を十分に実行できる仕組みを整える。..... 4

Cornerstone 2 : 教育研究活動の充実

1. 知識に偏らない教育の基盤構築
 - ① サービスラーニングの導入、課外活動の機会。..... 5
 - ② 一流の芸術活動に直接触れる体験、機会。..... 7
2. より効果的な教育方法の開発
 - ③ 学生の履修状況、授業評価に基づいたカリキュラムの構築。..... 8
 - ④ 教材、授業内容の定期的なレビュー、結果を改善に結びつけるルール。..... 13
3. 教育・研究力の強化
 - ⑤ 教員の業績評価の基準と方法を整備する。結果に基づき、教育力、研究力の問題を明らかにし、ファカルティーディベロップメント等のプログラムを企画し、実施する。..... 16
4. 一貫教育の研究
 - ⑥ 小学校、中学校、高校を含めた一貫教育システム、各設置校の連携が、本学園のビジョンの達成にどのように役立つのかを検証するための調査研究を行い、学園の可能性と課題を明らかにする。..... 19

Cornerstone 3 : 高度に国際化された教育システムの確立

1. 外国語教育の強化
 - ① 英語、中国語、韓国語等の外国語教育を強化する。..... 21
 - ② 外国語の公的試験をカリキュラムに組み入れる。..... 22
2. 英語による学位取得コースの開設（大学）
 - ③ 留学生のニーズを調査し、専門分野とカリキュラムを決定した上で、英語による学位取得コースを開設する。..... 22
 - ④ 海外とのダブルディグリープログラムを導入する。..... 23
3. 留学生受け入れプログラムの充実
 - ⑤ 留学生の住環境整備。..... 24

⑥ 留学生対応の教職員やカウンセラーの充足。	25
⑦ 留学生経済支援制度の強化。	26
⑧ 留学生就職支援の充実。	26
⑨ 海外拠点、海外連携大学等との共同プログラムによる留学生アドミッション の充実。	28
4. 留学生派遣プログラムの充実	
⑩ 派遣留学、海外実習の準必修化。	29
⑪ 派遣留学、海外実習プログラムの拡充と多様化の推進。	30
5. 留学生との交流	
⑫ キャンパスにおける留学生と日本人学生の交流。	32
Cornerstone 4 : 地域貢献力の強化	
1. 地域発展の支援	
① 地域の文化社会的発展に関する学術面での支援体制を充実し、地域の発展に 貢献できる活動を実施する。	34
2. 公開講座の充実	
② 生涯学習センター（現エクステンションセンター）のプログラムによる受講 生の倍増。	42
③ 大学、大学院の講義科目を市民に開かれたものとし、聴講生・科目履修生を 積極的に受け入れる。	44
3. 学生生徒のボランティア活動支援	
④ 学生・生徒が、地域の環境保護・福祉活動に参加し、実際に地域の役に立つ 行動をとれるようにする（ための支援の仕組みを構築する）。	45
Cornerstone 5 : 学生・生徒支援体制の充実	
1. 健康管理体制の充実	
① 医師とスタッフを配置した保健室を設置する。	47
② 学生相談室の機能を強化する。	47
2. 奨学金制度の整備	
③ 奨学金制度の整備：対象者の適切な選定と、給付、貸与の選択。	48
④ 奨学金基金の充実（学納金に頼らない奨学金の原資）。	48
→ Cornerstone10-3-⑦に統合	
3. スポーツ支援体制の構築	
⑤ 競技スポーツ強化のための専任指導者の確保とスポーツ活動の支援体制の整 備（メジャーなスポーツについて全国レベルまで上げる支援）。	49
4. キャリア開発支援の強化	
⑥ 学園が育てる人材に相応しい就職機会、進学機会の開発。	49
⑦ キャリア教育、キャリアガイダンスの強化。	53

⑧ インターンシッププログラムの充実（勤労観、職業観を体験的に学ぶ機会の提供）。	53
5. 学士力・就業力育成支援	
① 図書館が授業と連携し、学習・教育を支援する。	54

Cornerstone 6 : ブランドの構築

1. ブランドイメージの再確認	
① 学園が志向する教育のあり方を明確に表現する。	56
② 教職員の理解を高め、努力の方向性を共有する。	56
③ 本学園の理念や目標が学生や社会に適切に伝えられているかどうか調査し、問題点を確定して改善を図る。	57
2. 広報機能の強化	
④ ITを活用し、効率の高い広報スタイルへ転換する。	57
3. 同窓会・後援会との連携強化	
⑤ 同窓会交流、卒業後のキャリア支援の充実。同窓会、後援会との連携の深化。	58

Cornerstone 7 : 本学園が望む学生を確保する仕組

1. 独自の募集・選抜方式の開発	
① 大学においては、「桜美林方式」の募集、選抜方法の開発（本学園の望む学生の確保）。	59
② 中高においては、募集の多様化と優秀な学生の確保。	59
2. 指定校の拡充と効果的アプローチの実施	
③ 指定校の拡充（望ましい学生の確保）。	60
④ 高校や関係機関に対する効果的なアプローチを展開するための専門スタッフの組成。	60
3. 「連携校」関係の構築	
⑤ 連携校（設置校と指定校の中間的位置づけ）による望ましい学生の確保（特に、キリスト教学校教育同盟）。	61
4. 募集広報方式の改革	
⑥ 募集広報のメディアミックスによる効率的、効果的な募集広告の展開。	61

Cornerstone 8 : アカウンタビリティの確保

1. 点検・評価の実施	
① 第三者評価（大学にあっては認証評価）と自己点検・評価を必須の活動と位置づけて、計画的、定期的の実施し、結果を公表する。	63
2. コンプライアンス管理の徹底	
② 法規制の遵守状況や、教育現場・職場におけるハラスメントの防止状況を点検し、内部監査の仕組みを導入することにより、コンプライアンスが確実に維持される仕組みを整える。	63

3. 改革・改善を図る体制の構築	
③ 上記を踏まえ、内部監査組織の整備を含め、確実に改革・改善を進めるための仕組みを整える。	64

Cornerstone 9 : 組織機構と人事管理の改革

1. 学園全体の組織機構の確立	
① 学園の組織機構の確立。	65
2. 教職員研修の積極的実施	
② 教職員研修の継続的な実施、意欲的に能力を発揮できる仕組み。	65
③ グローバル時代に対応できる教職員の育成（言語、国際的視野、国際感覚）。	66
3. 教職員がやりがいをもって働ける環境の整備	
④ 教職員の働く意欲、生きがい、安心感、環境整備。	67
4. 教職員人事制度の抜本的見直し	
⑤ 教職員の人事制度の抜本的見直し。	67
5. 業務の合理化・効率化の推進	
⑥ 事務部門の業務プロセスの全体的な見直し、合理化、効率化。	67
6. 人員計画の確立	
⑦ 教員定数、職員定数を定め、中長期の人事計画の策定、計画的な採用と育成。	68
7. 危機管理体制の点検	
⑧ 危機管理体制の見直し、マニュアル化、訓練の徹底（自然災害、傷病、事件事故、情報漏えい等）。	68

Cornerstone10 : 健全な財務の構築と維持

1. 帰属収支差額の確保	
① 帰属収支差額10%を実現。	69
② 帰属収入に対する人件費の比率を50%程度。	69
③ 教育研究経費の比率を30%程度。	69
④ 管理経費比率を10%以下。	70
2. 借入金総額の制限	
⑤ 借入金総額は総資産の25%以下。	70
3. 基本金の充実	
⑥ 基本金組み入れは、帰属収入に対し10%以上を維持。	70
⑦ 奨学金財源確保のため、第3号基本金の充実を図る。	71
4. 学納金・補助金以外の収入の充実	
⑧ 外部資金、寄付金、事業収入を計画的に増大させる。	71
⑨ 効率化により法人全体の経費削減に努める。	71
5. 中期目標に沿った予算編成	
⑩ 中期目標全体に連動した単年度事業計画、予算の策定を行う。	72
⑪ 複数年予算の観点で投資計画に対する財源確保を行う。	72

Cornerstone11：質量両面でのキャンパス高度化

1. 安全安心の確保
 - ① 安全安心かつ快適な教育環境の整備、継続的な推進。 73
2. 建設中案件の完成
 - ② 上小山田グラウンド整備、期間内の完成。 74
3. キャンパス中長期整備計画の完成と実行
 - ③ 学園全体のキャンパス中長期整備計画、建設の優先順位に基づく整備。 74
4. エコ・キャンパスの実現
 - ④ エコ・キャンパスの実現、面積あたりの消費エネルギーを5年間で10%削減。 75

Cornerstone12：情報システムの高度化

1. 情報システムの安定稼働継続
 - ① ソフトの更新、セキュリティ対策、安定的、効率的な稼働。 76
2. IT利用能力の向上
 - ② IT利用に関する教職員能力向上プログラムの開発と実施。 77
3. 外部IT利用者支援
 - ③ 外部利用者向けコンテンツ公開のシステム企画。 77
4. 学内業務プログラムの革新
 - ④ 教員業績管理システム、入試業務システム、教職員用グループウェアの整備、業務プロセスの効率化。 78
 - ⑤ キャンパスカードシステムの開発、職員の勤怠管理、学生の出欠管理。 78
5. 経営情報の提供
 - ⑥ 経営判断に役立つ経営情報を提供できるシステム開発。 78

Cornerstone 1 : キリスト教精神の浸透

1. キリスト教理解の深化

- ① 教職員の研修機会の提供 (キリスト教の基本的な教え、世界の文化社会への貢献についての理解)。教職員一人ひとりがロールモデルとなるように。

主管部局 (担当者): キリスト教センター

関連部局: 総務・人事センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キリスト教センター	創立90周年に因んで、5月23日から5月28日までの週を「創立記念特別週間」とし、清水安三・清水美穂、清水郁子、賀川豊彦など学園の歴史の草創期を飾る人々にスポットを当てる。	完了	桜美林学園「創立90周年記念週間」のプログラム 2011年5月23日～26日の連続4日間 特別講師を招いて、テーマ別の記念説教(講演)を実施。 (教職員・学生 総勢467人来場) 23日「清水安三先生について」 講師: 柳原鐵太郎 (前学園長) 24日「ヴォーリズ先生について」 講師: 片桐郁夫 (ヴォーリズ建築事務所) 25日「賀川豊彦先生について」 講師: 戒能信生 (東駒形教会) 26日「清水美穂先生について」 講師: 小崎 眞 (同志社女子大学) 桜美林大学「キリスト教強調週間」のプログラム 2011年10月17日～20日の連続4日間 特別講師を招いて記念説教(講演)を実施。 (教職員・学生 総勢301人来場) 17日「チルドレン・ファースト」 講師: 宮本和武 (バット博士記念ホーム) 18日「共生への招き」 講師: 大嶋果織 (NCC教育部) 19日「寄り添い続ける光」 講師: 桃井和馬 (写真家・ジャーナリスト) 20日「隣人を自分のように愛する」 講師: 貝沼眞理 (婦人矯風会)	春学期の「創立記念週間」、秋学期の「キリスト教強調週間」を、今後も定着させていきたい。
	「キリスト教と高等教育」と題する記念講演・シンポジウムを開催する。(大学教育開発センターとの連携も考慮)	未着手	パネリスト選考過程より、依頼予定の方々が多忙につき、開催に至らず。	テーマや会の設定のあり方、人選について再考する。
	7月から9月にかけて、「建学の精神・桜美林のDNAを受け継ぐ」というテーマで創立90周年記念懸賞論文を募集する。10月17日から21日までのキリスト教強調週間において、受賞作品を発表し、表彰する。	完了	「学園創立90周年記念 桜美林大学 懸賞論文」を実施した。 テーマは、「建学の精神・私にとっての学而事人」とし、学生たちの日頃の社会貢献活動の取り組み、専攻・研究テーマとの関連で、桜美林学園の建学の精神をどのように受け継いでいるかを発表する場とした。 2011年7月21日 募集案内を学内公示 10月31日 応募締切	学生が取り組みやすいテーマ設定など、さらに検討を加える。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キリスト教センター			11月18日 選考結果発表 12月1日 表彰式 (165人出席) 受賞作品「建学の精神・私にとっての学而事人～ハンセン病が教えてくれたこと～」 大賞受賞者 大学院国際学研究科国際学専攻2年生1人	
幼稚園	①教職員礼拝：毎朝 ②クラスごとの礼拝：毎日 朝・昼・帰り ③学年ごとの礼拝：各学年月2回 ④合同礼拝：イースター、母の日、花の日（こどもの日）、収穫感謝日、クリスマス等教会暦に従って全学年合同の礼拝を献げる ⑤チャプレンとの連携：進級、入園、卒園、修了等の各式典およびクリスマス礼拝 ⑥父母の会礼拝：父母の会（月1回）	完了	③学年ごとの礼拝 各学年原則月2回 年長組：計15回 年中組：計16回 年少組：計13回 ④合同礼拝： イースター、母の日、花の日（こどもの日）、収穫感謝日、クリスマスアドベント（計4回） ⑤チャプレンとの連携： 進級式、入園式、卒園式、クリスマス、修了式 ⑥父母の会礼拝：計10回	
中学校・高等学校	(1) キリスト教学校としての教育理念の明確化 1) 礼拝時間の充実 ①学年礼拝で礼拝ノートを付け表現力理解力を身につける ②学年礼拝の説教内容を6ヶ年・3ヶ年を見据えたものにする 2) 宗教教育の充実 ①高2・高3で授業時間に教科として「聖書」を検討する ②各教科と連携を行う（音楽・英語・社会） 3) 各種行事でキリスト教アトモスフェアを醸し出す ①礼拝形式のセレモニー ②学園年間聖句とのリンクを検討する 4) 教職員がキリスト教を率先して学び理解する ①祈りの会を設定する ②教職員へのキリスト教研修会の定例化を検討する 5) 保護者への働きかけ ①聖書を学ぶ会、講演会、子育てを考える会 6) ボランティア活動 ①施設等への訪問	一部完了	(1) - 1) - ①、②については、2011年度より高校1年生でも実施し、爾後継続して取り組む。 (1) - 2) - ①、②については、検討している段階であり、2012年度カリキュラムには導入していないが、今後もキリスト教学校として導入を検討。 (1) - 3) - ①、②については、宿泊を伴う行事の開・閉会礼拝、朝の礼拝、晩の祈禱を行った。また、特別礼拝として、創立記念日、クリスマス、収穫感謝祭、イースターを行い、校舎内に聖句、カレンダーを掲示した。 (1) - 4) - ①、②については、キリスト教学校教育同盟の「祈りの輪」に参加した。 (1) - 5) - ①については、PTAと協力して行っている。 (1) - 6) - ①については、未着手。	2012年度中期目標で掲げている。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
ア リ ベ ラ 学 群	教授会、FD等の教員の集まりは祈祷を持って開始することを継続する。	完了	実施計画に書かれていることは、学群創設以来すでに実践しており、今後も継続する予定である。	

2. 外部キリスト教組織との連携

② キリスト教学校教育同盟、キリスト教系教育組織、教会との結びつきをグローバルに展開する。

主管部局 (担当者) : キリスト教センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キ リ ス ト 教 セ ン タ ー	キリスト教学校教育同盟との絆と連携を更に深め、同盟加盟校としての桜美林学園の役割と地位の向上を計る。	完了	2011年11月11日のキリスト教学校教育同盟理事会において、本学園理事長が、同盟の理事長として選任された。 2012年2月9日～10日には、第3回同盟・維持財団理事会が、多摩アカデミーヒルズで実施された。 その他、本学園の教職員が、事務職員夏期学校研修会準備委員会、広報委員会、宣教協力学校協議会の各メンバーとして参加し、主要な役割を担っている。	同盟理事長である本学園理事長・学園長を支え、キリスト教学校教育同盟の諸活動に対し、全面的な協力体制で臨む。
	日本キリスト教教育学会、キリスト教文化学会の他に、新たに日本宗教学会、日本基督教学会、日本基督教史学会等にも加盟し、学問的交流を促進する。	完了	【2011年4月より、以下の学会へ新規加入した】 ・日本宗教学会 ・日本基督教学会 ・日本基督教史学会 【各学会の大会開催および参加状況】 ・日本基督教教育学会大会 2011年6月17日～18日 於：関西学院会館および聖和短期大学 (参加者：計4人) ・日本宗教学会学術大会 2011年9月2日～4日 於：関西学院大学 ・日本基督教学会学術大会 2011年9月6日～7日 於：同志社大学 (参加者：1人) ・日本基督教史学会 2011年9月16日～17日 於：聖学院大学 (参加者：1人) ・キリスト教文化学会 2011年10月29日 於：同志社大学 (参加者：1人)	日本キリスト教教育学会の大会を、桜美林大学において開催する。 開催日：2012年6月15日～16日

3. 宗務組織の充実

- ③ 宗務部（現キリスト教センター）の組織、役割等を明確にし、活動を十分に実行できる仕組みを整える。

主管部局（担当者）：キリスト教センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キリスト教センター	<p>本学Webサイトにおいて、宗務部（現キリスト教センター）の行うキリスト教活動を効果的にアピールし、チャプレン室ならびにキリスト教教育センターの取り組むそれぞれの活動と役割を学生・教職員に周知する。また、宗務部（現キリスト教センター）の組織・役割を分かり易く解説した『荊冠堂チャペルガイド』（パンフレット）を新たに作成し、新入生ならびに学内随所において配布する。また、従来の『キリストとの出会い』（小冊子）を新たに改訂し、『チャペルアワー説教集』として年2回発行する。</p>	完了	<p>本学Webサイトのデザインと内容については、入試・広報センターとも協議・検討を重ね、全面的なリニューアルを完了した。</p> <p>『キャンパスライフはチャペルから～荊冠堂チャペルガイド～』（パンフレット）作成し、新入生ならびに学内随所に配布し、宗務組織の役割・機能を分かり易く紹介した。</p> <p>『キリストとの出会い』（小冊子）も、装丁や内容を一新して読み易くし、『チャペルアワー説教集』として春学期および秋学期の年2回発行することとなった。</p>	<p>組織の改編や人事の変更にあわせて、随時、本学Webサイトやパンフレットの内容を更新・改訂していく。</p> <p>また、必要に応じて、小冊子等の新たな刊行物を企画検討していく。</p>

Cornerstone 2 : 教育研究活動の充実

1. 知識に偏らない教育の基盤構築

① サービスラーニングの導入、課外活動の機会。

主管部局 (担当者) : 幼稚園、中学校・高等学校、基盤教育院

関連部局 : キリスト教センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
幼稚園	4月: 親子遠足 (年長・年中・年少) 7月: 一泊宿泊保育 (年長) 9月: 昆虫観察・郵便局訪問 (年長) 11月: 秋の遠足・芋掘り (年長・年中・年少)、プラネタリウム (年長) 3月: お別れ遠足 (予定)	完了	計画に従って全ての行事を実施。(お別れ遠足のみ3月実施予定) それぞれの活動についての反省および改善点を次年度の計画に盛り込むようにしている。 課外活動の充実プログラム実施結果: 親子遠足: 年長組 4月21日 大地沢青少年センター 年中組 4月19日 小山田緑地 年少組 4月26日 小山田緑地 年長組一泊宿泊保育: 実施日: 7月14日~15日 1泊2日 研修先: 大地沢青少年センター (年長組) 昆虫観察: 9月12日 復活の丘 郵便局訪問: 9月15日 町田西郵便局 プラネタリウム: 11月16日 ベネッセスタードーム (全園児参加) 秋の遠足: 9月20日 小山田緑地 芋掘り: 11月7日 町田市矢部町	
中学校・高等学校	(1) 生徒の理解力判断力の向上 1) 課外活動の充実 ①図書館の充実の継続 ②校外学習の検討の継続 ③討論会、発表会の充実	一部完了	(1)-1)-①については、生徒の利用を高めるための工夫を重ねている。 (1)-1)-②については、林間学校の宿泊日数を3日間に変更、海外短期留学校の行き先を検討し、ニュージーランドに変更、高校修学旅行の内容は与論島をやめ、沖縄本島のみに変更した。 (1)-1)-③については、未着手。	2012年度の中期目標に掲げている。
基盤教育院	現存の研修プログラムに「桜美林学園アメリカ財団が運営する研修プログラム」「モンゴルにおける研修プログラム」を加えることで、サービス・ラーニングの更なる機会の増加をめざす。2011年度にはサービス・ラーニング・センター(仮称)準備室を立ち上げ、2012年度に向けて準備を進める。	一部完了	1. 3月11日の震災によりサービス・ラーニング・センターを急遽立ち上げ、サービス・ラーニング・センター長を中心にボランティアを中心とした活動を開始した。 2. 2011年度に新たに設置したプログラム a) 「国際協力研修(アメリカボランティア研修)」 b) 「国際協力研修(モンゴル環境研修)」 c) 「国際協力研修(アメリカ貧困問題)」 d) 「国際理解研修(幼児教育)」	1. プログラムの質を向上させ、受講生を増やす。 2. 2012年度に新たに設置するプログラム a) 「地域社会参加(わたしたちに身近な貧困)」 b) 「地域社会参加(地球にやさしい食と農)」 c) 「地域社会参加(地域に根ざし

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
基盤教育院				た福祉)」 d)「地域社会参加（災害支援とボランティア）」
	サービス・ラーニング・センター（仮称）準備室を立ち上げ、2012年度に向けて準備を進める。	完了	<p>【SLC立ち上げ】 本学における本格的なサービス・ラーニング実施に向け、各学群、関係部署の代表からなる企画委員会を設置し、サービス・ラーニングの定義、科目化、実施の方向性について話し合いを重ねてきた。結果、2012年度より基盤教育院フィールドスタディーズ「地域社会参加」科目の中にサービス・ラーニングの要素を取り込んだ4クラス（「わたしたちに身近な貧困」「災害支援とボランティア」「地域に根ざした福祉」「地球にやさしい食と農」）を新たに開講することとなった。</p> <p>【学生の被災地支援活動参加支援】 2011年度は準備室の立ち上げのみを計画していたが、東日本大震災が発生したため、仙台にある日本基督教団東北教区被災者支援センター エマオを現地協力団体にサービス・ラーニング・センター（以下SLC）としての被災地支援活動を本格的に開始した。結果、昨年度同団体の実施する被災地支援にSLCを通して参加した学生（RJ留学生含む）は、学期中（春・秋）、夏休み、春休みを通して計91人となった。また、SLCでは夏休みに東北学院大学を中心とする大学間連携「気仙沼プロジェクト」および仙台七夕祭りへの参加支援を学生・教職員合わせて各々23人、9人に対して行った。これらすべてを合わせ、昨年度SLCが参加支援を行った学生は計123人にあがる。なお、被災地支援活動は「サービス・ラーニング」の視点を重視し、派遣前には事前研修（オリエンテーション）、派遣後には事後研修（報告会や振り返り）を実施、参加学生の現地での実体験が学生個々人の学びにつながることに留意した。</p> <p>一方、SLCでは学生の主体性を重視し、学生の主体的な活動の後方支援も積極的に行ってきた。具体的には、SLCの運営を手伝う学生ボランティアが東日本大震災をテーマに企画・実施した講演会、大学祭での展示といった活動が挙げられる。結果、学生が企画した講演会等には多くの学生、地域の人々が参加し、また町田タウンニュースや武相新聞にも掲載された。</p>	<p>【SL関係】</p> <p>①フィールド教育デパートメントの地域社会参加に4つのサービス・ラーニング・プログラムを新設し、合計で80～100人程度の履修者数をめざす。</p> <p>②既存の「地域社会参加」の科目を整理して、サービス・ラーニングの強化を行う。</p> <p>③全学群のFDあるいは全学的なFDにおいて既存の学群科目にサービス・ラーニングの教育手法を導入するための教員対象の講習を実施する。</p> <p>④各学群で少なくとも1回、FDでサービス・ラーニングを取り上げ、2013年度から各学群の2～6の科目でサービス・ラーニング教育方法の導入の実現をめざす。</p> <p>⑤既存の「地域社会参加」の科目の受講者数を増加させ、サービス・ラーニングとしての実施体制を整える（引受先との協定書、安全対策等）</p> <p>【被災地支援活動関係】</p> <p>①キリスト教センターとも協力し、</p>

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
基盤教育院				被災地支援を優先課題と位置づけ、前年度協力関係を築いてきた東北教区被災者支援センターエマオを受入団体として、2012年度も継続して本学学生の参加支援を行う。 ②キリスト教センターとも協力し、他大学や他団体と協力しながら、被災地のニーズの変化に合わせた物資支援・人材支援等を計画し、本学学生の参加を支援する。

② 一流の芸術活動に直接触れる体験、機会。

主管部局（担当者）：幼稚園、中学校・高等学校、副学長

関連部局：総合文化学群

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
幼稚園	11月：観劇（年長・年中・年少） 1月：絵本の読みきかせの会（年長・年中・年少）	一部完了	効果的な教育プログラム実施結果： 観劇：実施日：11月4日 演目：不思議の国のアリス 劇団小さいお城を招き、園舎ホールにおいて全園児で鑑賞 絵本読み聞かせの会：当初実施を予定していた1月は、インフルエンザ流行の為、学年毎に2月23日と3月7日に延期	
総合文化学群	2011年度からはこれまでのように予算化せず稟議案件となった。「一流の芸術活動に直接触れる」という本来の目的に合致するよう、各プログラムを再考することが求められる。これまでのプログラムにはそれぞれ、教育効果が確認されているという実績を持つが、さらにカリキュラムとの関連、教育効果を高めるということを目標にプログラムの再構築を行う。	一部完了	「本物の芸術活動に触れる、鑑賞する」という本来の趣旨に合わない支出について見直すことで、演劇専修の支出が約60%減となった。造形デザイン専修の交通費・宿泊費については2013年度生から廃止するが、2012年度においてもプログラムの規模を縮小した。	支出の適正化については目処が立ったが、体験の成果が如何に学習にフィードバックされているかの検証、あるいは専修ごとのプログラムの特色を生かすこと等は今後の課題である。

2. より効果的な教育方法の開発

③ 学生の履修状況、授業評価に基づいたカリキュラムの構築。

主管部局（担当者）：中学校・高等学校、教育・研究支援センター

関連部局：各学群、副学長、学長特別補佐（企画政策担当）

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
教育研究支援センター	<p>・ 学士課程においては2012年度以降、大学院においては2013年度以降に大幅なカリキュラム改編を予定している。各授業科目の履修者数、授業評価アンケートの結果等の資料を各教育組織に提出し、カリキュラム構築に役立たせるとともに、教務部（現教育研究支援センター）としての意見も上申していきたい。</p>	完了	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各授業科目の履修者数、授業評価アンケートの結果等の資料については、学期毎のデータを各学群長、副学長に提出している。 ・ 学士課程の2012年度からのカリキュラム改編案については、学群ごとにまとめ、既に学長に提出した。 ・ 新しいカリキュラムの教育効果をあげるべく、評価制度（GPA 制度）の見直しと改革案の検討が GPA 制度検討委員会を中心に進められた。 ・ 大学院のカリキュラム改編案については、2013年度実施に向けて検討中であるが、教育支援課としてのサポートを継続中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院の2013年度からのカリキュラム改編に関し、サポートを継続する。 ・ 各学群の新カリキュラムの実施について、支障なきよう支援しつつ、レビューのための資料作成を継続する。
リベラルアーツ学群	<p>学生の履修状況に関しては、教育の質の担保のための工夫はそのまま継続する。授業評価に基づいてカリキュラムを構築するのではなく、LA学群として提供するべきカリキュラムを2年間かけて開発してきた。2011年度はその実現に向けて詳細を検討する。</p>	一部完了	<p>過去2年間かけて議論を続けてきたカリキュラム改革であるが、専攻科目の部分については、学群全体の合意を得て確定することができた。2012年度の新入生から、この新カリキュラムが適用される。基本的な枠組みとしては、各専攻プログラム（メジャー）を修了するための必要単位数を4単位程度ずつ削減すると同時に、新しい要件として、専攻科目全体で62単位の修得を義務づけた。こうした要件の改定により、1つのメジャーだけを修了して卒業するのではなく、ダブルメジャーやマイナーの修得に向けて学生を促すことになる。つまり、LA学群の特徴であるカリキュラムの幅広さを意識した改革となっている。なお、各専攻プログラムにおいては、旧学部からの移行に伴って生じていた科目内容や名称の重複等について、その整理を行った。</p> <p>以上のようなカリキュラム改革だが、全体としてみた場合、その取り組み状況をあえて数値化すると60%程度である。これは、今回の改革が基礎教育科目の部分について、実際には手を加えることができなかったためである。基礎教育科目の改革については基盤教育院との綿密な連携を必要とするが、組織を超えた議論の場を設ける時間や余裕がなかったことで、具体的な改革の成果を生み出すことはできなかった。</p>	<p>左欄で述べた基礎教育科目についての改革が、次の課題となる。</p>

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
総合文化学群	<p><演劇> 舞台監督は上演の要となるにも関わらず、従来の演劇教育では殆ど関心が払われなかった。そこで指導者の人選、授業内容を討議し、演劇専修にふさわしい新科目「舞台監督の仕事」を2011年度に加えた。</p>	完了	<p>従来の演劇教育において殆ど関心が払われなかった「舞台監督」に焦点をあて、新しい試みとして授業に取り入れた。その結果、その「仕事」の重要性を学生に教示することができ、上演芸術のあらたなる視座の獲得の機会となった。また、1年次からの履修としたことにより、早い段階からの専門的知識の獲得および意識開発の糸口になったといえる。また、内容とは別の観点においては、演劇専修では2011年度150人近い新入生を迎えることとなったが、この新科目設置により、学生の適性に応じた科目の選択が可能になった。 (例年「ダンス基礎」に履修者数が集中するため、2011年度の新入生の受け入れに困難をきたす懸念があったが、新科目の開設により人数的な振り分けも実現できた。「ダンス基礎」120人：「舞台監督の仕事」25人)</p>	
	<p>ダンスも日本の最新シーンの人材を教員にむかえ、指導上最強ともいえる布陣とした。</p>	完了	<p>2010年度と同様の講師陣により、連携を深め指導にあたった。非常勤講師の上村なおか、近藤良平、伊藤千枝は、専任教員である木佐貫邦子と共に演劇専修の学生に振付け作品を提供した。年々、ダンス専攻の学生のレベルの向上が見られ、また、ダンス専攻以外の学生の身体表現への意識の高まりも見受けられる。これは、演劇とダンスをコース分けせず、同時に学ぶことのできる本学の取り組みの成果といえるだろう。また、それが他大学との違いであるため、特徴としてさらに期待できると考える。</p>	<p>2年後に定年を向える非常勤講師1人がいるため、演劇専修の取り組みに相応しい後任を捜し始めたい。また、これを機に、ダンス科目の見直し確認も行いたい。</p>
	<p>京劇の専門家を専任に迎え、これまで以上に「東洋演劇演習」の充実を図る。</p>	一部完了	<p>2011年度より京劇の授業担当者を専任化し、今まで以上に京劇および中国文化の伝授に取り組んだ。2012年5月には、日中交流企画として桜美林生（在学生と卒業生）による京劇上海公演が計画されており、これも、その成果の一つといえるであろう。</p>	<p>上海公演の成果を次につなげるプログラム考案。</p>
	<p><音楽> ピアノ、管楽器は今後も指導体制を整え、高度な教育をめざす。声楽分野は、「基礎からいっそう丁寧な教育をする」という教育方針について教員相互の理解を強化する。</p>	完了	<p>指導体制を整え、教員相互理解を強化するにあたり、3月28日に専任教員7人、非常勤講師17人、計24人の参加によるFDを開催した。(非常勤講師を交えたFDの開催は初めてであった) 1回の授業で何を行い、何を目標にするのか、初心者の方の丁寧な指導法など、忌憚の無い意見を交換し合った。 特に本学の学生に適した指導の仕方を見つ</p>	<p>専任教員と非常勤講師が参加できるFDが年に1回のみであり、非常勤講師は外部での仕事が多いため不参加者が多いことが残念である。 アンケートをとる</p>

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
総合文化学群			けるために時間を費やした。 各分野のレッスン時間の均一化、見学時間の導入、授業外練習の強化など大学設置基準に基づく授業形態の理解が得られるよう説明し、学生のレッスン時間、内容が公平に行われるよう確認し合うことなどにより教員の相互理解を深めることができた。	などして参加者を増やしたい。
	<造形デザイン> さらなる可能性を求めて現在行われている授業を深化させ、この自由な表現の場を伝統として繋げていけるようにすると共に、レベルアップをめざしたい。	未着手	この件は、テキスタイル部門の担当教員が今年度を以て定年退職することから、学生の表現の場の一つであるテキスタイル分野を今後どうするか議論が契機となっている。しかし、定年退職教員の後任人事はいったん保留とし、さらに議論に時間をかけることとなった。	いずれにせよ2013年度新体制に向けて結論を得る必要がある。経験の乏しい学生の多い指導の場で、基礎的な美術デザインの再教育と、学生の体験拡張の必要性を痛感している。これを反映したカリキュラムの改善をめざす。
	<映画> カリキュラムについて中長期の計画を策定する。設立から4年経過したが、実習科目を中心に未整理な点のこる。収支のバランスを考慮しつつ、カリキュラムを充実させレベルアップを図るとともに、その独自性を学外に積極的に発信していきたい。	完了	カリキュラムの中長期計画策定のため、学生アンケートの結果も参考にしつつ、専修内で議論を重ねた結果、現行のカリキュラムを維持したいという結論を得た。そのため、現行程度の予算措置の必要性があるが、その手当の方法について検討しているが、現実に至っていない。	
ビジネスマネジメント学群	2012年度実施に向けて顧客志向のカリキュラムを完成：社会人基礎力・学士力養成のプログラム開発	完了	2012年度新入生より新しいカリキュラム導入を決定した。 社会人基礎力を養成する必修科目として「社会人基礎Ⅰ・Ⅱ」を設定。 人間関係力あるいはチームで働く力を養成するため「iPad」を1年生に支給。学群内にiPadを用いた教育についてプロジェクトチームを設定した。 学士力を養成するため「実習科目」を必修化し、また、「TOEIC®600点」を卒業時の達成目標とした。なお、新カリキュラム適用者から「早期卒業要件」にTOEIC®700点を加えた。 また、就職活動支援の試みとして「SPI対策」を内容とした特別講義を開講・実施した。	
担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
健康福祉	社会福祉コースでは、新たに福祉ビジネスについて学ぶための科目整備に向けて準備を進めている。 精神保健福祉コースでは、新カリ	一部完了	・社会福祉コースでは、2011年度に「福祉マネジメント演習A（対人援助サービス）」「福祉マネジメント演習B（ユニバーサルデザイン）」「福祉マネジメント演	教員が用意した課題ばかりでなく、学生自身が考え、提案し、積極的に学ぶこ

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学群	<p>キュラムに合わせた調整を行うことをめざす。健康科学コースでは運動実技科目の種目を増やし、運動スキルの向上をめざす。保育コースでは、実習の充実および学生の意欲喚起を推進する試みを検討する。</p>		<p>習C（経営・福祉ビジネス）」などの科目を追加したカリキュラム編成を行っており、学生からの手ごたえを得ている。福祉ビジネスの学びの強化において充分とはいえないが一部計画を達成したといえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉コースでは、厚生労働省からの新カリキュラムの通達にしたがい、2011年度夏以降科目名称読み替えなどを含めた対応を準備した。履修ガイドに記載した2012年度のカリキュラムは、新カリキュラムに対応している。計画は完了したといえる。 健康科学コースでは、当初運動実技系科目の強化を検討したが、実技のみでなく心と体の調和をめざす視点が本学の健康科学コースの強みであるということを通認識し、方向性を修正し、カリキュラムの改編を検討した。その上でLA学群科目のあいのりの心理学系科目（「健康心理カウンセリング概論」「学校カウンセリング論」「障害発達心理学」）を専攻科目群に追加し、さらにより総合的な視点を強化するために、健康ビジネスに関する科目（「スポーツ産業論」「スポーツ組織論」「スポーツマーケティング」）を2012年度より設置することにした。「スポーツ産業論」は、BM学群の既存科目のあいのり、他の2科目は新任教員が担当する。年度当初の計画は完了していないが、計画の見直しを行ったことが原因であり、見直した計画については、完了したといえる。 保育コースでは、1月末に研究会およびゼミが主体となり、地域の子育て年代にも呼び掛けて「保育フェア」を実施し、明確な目的のもと意欲的かつ積極的に保育活動スキルを向上させた。計画は完了したといえる。 	<p>とを強化していきたいと考える。</p>
大学院	<p><国際学研究科> 社会人学生の履修上の便宜を図り、夜間開講ないし週末開講科目を実施している。だが、職場状況の変化により、夜間通学に困難さを覚えているものも増えている。</p>	一部完了	<p>入学者が必ずしも社会人学生ばかりでないため夜間開講は多くない。6・7時限目開講を一部実施している。</p>	<p>次年度以降も引き続き検討する。</p>

担当 部門	実施計画	取り組 み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
大 学 院	<p><経営学研究科> 2013年度の改編に向けての作業において、市場のニーズをも考慮しながら、カリキュラムの抜本的な改編作業に取り組む。</p>	完了	<ul style="list-style-type: none"> 2013年度の改編に向けての作業において、新規のISOグローバルビジネス領域開講の増設なども含め、市場のニーズをも考慮しながら、カリキュラムの抜本的な改編作業に取り組む。 2013年度から始まる新カリキュラムの大枠がほぼ決定している。それをもとに、2012年度中に、授業評価のあり方、質確保を図るための具体的な方針等について検討することで、改革作業を完了する予定である。 	引き続き、カリキュラムの抜本的な改編作業に取り組む。
	<p><言語教育研究科> 2013年度の本研究科改革に向けての作業において、日本語教育専攻および英語教育専攻のあり方を見直し、カリキュラムも必要に応じて改正する。</p>	完了	<p>2011年度当初より、研究科委員会を定期的（1ヶ月に1回）に開き、また、必要に応じて、専攻会議や言語教育四役会議（研究科長・両専攻主任・教務委員・入試戦略委員で構成）を開き、左記の改革に向けて検討してきた結果、以下の成果を得た。</p> <p>研究科全体</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの日本語教育と英語教育の相補関係は堅持する。 言語教育に必要な知識・技能・観点の教育、理論と実践の両輪の支えという方針は継続する。 <p>日本語教育専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの理念---日本語教育のプロフェッショナル養成---を堅持する。 2013年度以降も四谷キャンパス開講を継続する。 カリキュラムについては、これまでの数年でほぼ改正が終わり、2013年度以降は1科目のみ増強する。 <p>英語教育専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの英語教員再教育から大学卒の入学生の教員養成に切り替える。 上記により、開講キャンパスを四谷から町田（PFCも含む）に移す。 大学卒の入学生が多くなるので、基本的な知識の教育に重点を置くため、英文学・英語学などの基礎科目を大幅に増強した。 	2013年度からの科目がほぼ決定したので、これに見合う教員の担当者の確保、各科目の連携の確認などを行う。
	<p><心理学研究科> 大学、大学院の講義科目を市民に開かれたものとし、聴講生・科目履修生を積極的に受け入れる。</p>	一部完了	健康心理学専攻で科目等履修生を1人受け入れたがきわめて不十分だと認識している（なお、臨床心理学専攻は、臨床心理士養成が主たる目的であり、科目等履修生は受け入れない方針をとっている）。	

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
大学院	<p><大学アドミニストレーション研究科></p> <p>2013年度の改編に向けての作業において、週末開講の増設なども含め、市場のニーズをも考慮しながら、カリキュラムの抜本的な改編作業に取り組む。</p>	完了	<p>2013年度の改編に向けての作業において、年度当初より研究科長・両専攻主任・教務委員による4役の検討会議を定期的（2月までに7回）に持ち、9月開催の研究科FD研修会において研究し、さらに研究科委員会に置いても3度にわたり検討するなど、また修了生からの意見聴取を行うなど市場のニーズをも考慮しながら、カリキュラムの抜本的な改編作業に取り組んだ。</p> <p>結果として、2012年度において、開講科目の一部を四谷キャンパスばかりでなくPFCで本学職員学生に対して試行的に実施することとした。</p>	引き続き、カリキュラムの抜本的な改編作業に取り組む。
	<p><老年学研究科></p> <p>社会人学生の履修上の便宜を図り、夜間開講ないし週末開講科目を実施している。だが、職場状況の変化により、夜間通学に困難さを覚えているものも増えている。</p>	一部完了	<p>職場状況により講義科目に参加できない学生に対して、レポート等による補習を行った。30%程度の完了状況である。</p>	本質的な解決は難しいが、次年度には、現実に適合した対応法を検討する。

④ 教材、授業内容の定期的なレビュー、結果を改善に結びつけるルール。

主管部局（担当者）：幼稚園、中学校・高等学校、大学教育開発センター、eラーニング支援室

関連部局：教育・研究支援センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
幼稚園	<p>各種ミーティング</p> <p>①定期学年ミーティング（週1回）</p> <p>②全体ミーティング（月2回）</p> <p>③事務ミーティング（月1回）</p> <p>④次年度ミーティング（年1回）</p>	一部完了	<p>行事により多少の変更はあったが、ほぼ計画通りミーティングの機会を持ち、意思の疎通を図ると共に、日々の反省および改善点を行い、次年度の計画に生かせるよう取り組んだ。</p> <p>①定期学年ミーティング実施： 年長組 計12回 年中組 計19回 年少組 計18回</p> <p>②全体ミーティング実施：計17回</p> <p>③事務ミーティングについては、月1回とせず必要に応じて行った。</p> <p>④次年度ミーティング：1月28日</p>	事務ミーティングは次年度も必要に応じて行う。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
幼稚園	各種研修 ①モンテッソーリ教育夏期研修 ②町田市立幼稚園協会夏期研修 ③こひつじ文庫絵本セミナー ④自己点検・自己評価研修(2回) ⑤モンテッソーリ教育園内研修会(月1回)	一部完了	行事により多少の変更はあったが、ほぼ計画通り行い、保育内容の研究および教師の資質向上に取り組んだ。 ①モンテッソーリ教育夏期研修 実施日：8月1日～3日 ②町田市立幼稚園協会夏期研修 実施日：8月28日～29日 ③こひつじ文庫絵本セミナー 実施日：8月5日～6日 ④自己点検・自己評価研修 実施日：5月11日、6月15日 ⑤モンテッソーリ教育園内研修会 実施日：4月21日、5月19日、6月30日、8月29日、8月30日、9月29日、10月27日、12月21日、12月22日	次年度も引き続き、教師の技術向上および知識を深めるための園内外における研究と修養に努める。
高等学校・中学校	(1) 教員の教育力の向上 1) 授業評価制度の確立 ①教科会議の充実計画 ②教科における教授法の確立・徹底を図り、教授者による差をなくす	一部完了	(1) - 1) - ①、②については、授業評価を謙虚に捉え、個々に改善しているが、教科全体で指導方法、指導内容を吟味して、チーム力として改善に結びつけるまでには到っていない。	2012年度中期目標に掲げている。
大学教育開発センター	「より効果的な教育方法の開発」について全学的な事業計画を立てることはできないが、調査・研究開発部門の活動の一環として「桜美林TIPS」の開発に関する研究は継続されている。	一部完了	【概要】 調査・研究開発部門の活動の一環として「桜美林TIPS」の開発に関する研究は継続されているものの、開発成果といえる段階には至ってはいない。次年度以降についての開発までの過程の再検討を始める計画である(報告時)。 【原因(事情)】 主管部局の大学教育開発センターが、大学機関別認証評価作業において時間的、人的、作業量的に追われた他、諸般の事情も重なったため。	
eラーニング支援室	eラーニングシステムを構築し、授業時間外学習コンテンツを学生に提供する。さらにeラーニングコンテンツの一部を教職員が参観し、Webサイト上で授業評価アンケートが行えるシステムを構築する	一部完了	1. eラーニングシステムの構築：構築し、学生の受講ができるよう、全学生・全教員をシステムに紐付けた。 【結果】 ：授業改善の取り組みが容易に行える物理的環境が整った。 2. 授業時間外学習コンテンツ：提供した。具体的な授業名は下記の通り。 「音楽制作演習(1)」「音楽制作演習(2)」「音楽制作演習(3)」「音楽制作演習(4)」「器楽実技(1)」「器楽実技(2)」「プログラミングⅡ」「幼児理解の理論と方法」「地歴科教育法」「飛行の基礎Ⅰ・Ⅱ一流体力学と環境問題」「基礎物理」「ゲーム業界のグローバル展開」。受講学生は979人。	2011年度は主にシステムの構築、コンテンツの提供を行うことを目標とし、それについては完成したが、具体的な授業改善のツールとして広く全学的に活用するためには、更に協力態勢を強化する必要がある。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
eラーニング支援室			<p>結果：実技系授業、各授業後のチェック問題、通常型の授業等さまざまな形式の授業の提供が可能であることが実証された。</p> <p>3. Webサイト上で授業評価が行えるシステム：システムを構築し、「音楽制作演習（1）」「音楽制作演習（2）」「音楽制作演習（3）」「音楽制作演習（4）」「器楽実技（1）」「器楽実技（2）」「地歴科教育法」の授業については授業参観および評価アンケートが行えるようにした。その結果、57件の評価アンケートが寄せられた。</p> <p>結果：模範的な授業を参観できるようにしたことにより、参観者の授業改善の機会を得られた。また、授業評価アンケートにより、授業提供者は自身の授業を第三者の目で振り返ることができ、授業改善に繋がった。(⇒協力教員が少なかったため、さらに多くの授業を参観し、評価できるようにしたい)</p>	
リベラルアーツ学群	継続してFDを頻繁に行う。	一部完了	震災の影響で春学期が短縮されたが、FD活動を行うという目標は達成できた。各学期に開催する研究会と、2月の研修会が主たる活動だが、後者については従来のような合宿形式ではなく、町田キャンパスにおいて1日で行った。その結果、教員の出席率も高まり、より効果的な活動となった。取り組み結果は「一部完了」としたが、LA学群では定期的なFD活動を実践しており、授業内容や教材の改善も含めた、教員による議論や情報交換の場を提供している。	2012年度は、より「中期的な」観点から、LA学群の現状に即した課題について、FD活動で取り組む必要がある。
大学院	<国際学研究科> 2013年度の改編を前提に、授業内容、研究指導体制の在り方についての検証、科目相互の関連性、成績評価（GPAを含む）等についての現状の見直し作業と検討を行う。	完了	2012年度実施の国際協力専攻および2013年度実施予定の国際学専攻についてはほぼ完了している。	次年度も継続する。
	<経営学研究科> 大学院委員会、大学院研修会等で、各研究科の意見を集約し、問題点の検証を行い、改善に向けての話し合いをはかる。	完了	<ul style="list-style-type: none"> 2013年度の改編を前提に、授業内容、研究指導体制、成績評価（GPAを含む）等についての研究科委員会で検討を行い、見直しまたは関連作業の検討を行う。 2013年度から始まる新カリキュラムの大枠はほぼ決定している。それをもとに、2012年度中に、授業評価のあり方、質確保を図るための具体的な方針等について検討することで、改革作業を完了する予定である。 	さらに、ブラッシュアップを行う。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
大学院	<言語教育研究科> 2013年度の改編を前提に、授業内容・研究指導体制の在り方についての検証、科目相互の関連性、成績評価等についての現状の見直し作業と検討を行う。	完了	毎学期末に行っている修了生のアンケート調査や受講生の授業評価によると、授業内容・研究指導体制・科目相互の関係・成績評価の満足度は平均して8割を超えている。	授業内容や研究指導に対して当初の目的は達しているため、この維持とさらなる向上をめざす。
	<大学アドミニストレーション研究科> 2013年度の改編を前提に、授業内容、研究指導体制の在り方についての検証、科目相互の関連性、成績評価（GPAを含む）等についての現状の見直し作業と検討を行う。	完了	2013年度の改編を前提に、授業内容、研究指導体制の在り方についての検証、科目相互の関連性、成績評価（GPAを含む）等についての現状の見直し作業と検討を行い、ほぼ成案を得た。	さらに、ブラッシュアップを行う。
	<老年学研究科> 2013年度の改編を前提に、授業内容、研究指導体制の在り方についての検証、科目相互の関連性、成績評価（GPAを含む）等についての現状の見直し作業と検討を行う。	完了	100%完了しているが、秋学期の老年学研究科におけるFDは、2013年度カリキュラム等改革の検討を研究科委員会において行ったので、別途に実施しなかった。	次年度も継続する。

3. 教育・研究力の強化

- ⑤ 教員の業績評価の基準と方法を整備する。結果に基づき、教育力、研究力の問題を明らかにし、ファカルティ・ディベロップメント等のプログラムを企画し、実施する。

主管部局（担当者）：大学教育開発センター

関連部局：各学系

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
大学教育開発センター	教員評価委員会が取りまとめを行っているため、各学系より寄せられたファイルを転載するのみとする。（※2月末時点ではどの学系からもファイルは送られて来ていない）	未着手	<p>【概要】 ほとんど未着手の状況であることは否めない。計画としては、学校教育法施行規則で定められたところの「教員の業績」について、概念的にも情報収集から取りかかる計画である（報告時）。</p> <p>【原因（事情）】 主管部局の大学教育開発センターが、大学機関別認証評価作業において時間的、人的、作業量的に追われた他、学校教育法施行規則に「業績の公表」ということが明確に定められた背景もある。</p>	
法学・政治学系	研究を実施するうえでの現状の問題点について学系会議で話し合い、何らかの合意が得られれば、テーマを定めてファカルティ・ディベロップメント等のプログラムを企画して実施する。	完了	2011年度第1回学系会議にて、学系FD実施について話し合った結果、以下のような意見がだされた。 ○国際学研究所が行った昼食懇談会のように、学系メンバーがそれぞれの研究について報告し、互いの研究を理解することから始めてはどうか。	とりあえず、一巡することが必要である。今年度のペースでは、一巡するのに時間がかかりすぎることから、次年度には別途時間を設

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
法学・政治学系			<p>○科研費の取り方についてのFDなどは、個別に聞けば済むことで必要ない。</p> <p>○FD委員（会）を作って、輪番制で企画を作ってはどうか。</p> <p>学系長、同補佐、研究委員で協議し、学系メンバーが各自の研究について報告し、互いの研究を理解することがまず肝要であり、その後、FD委員を設けて企画を立てるべきとの結論に達し、第2回学系会議にて承認を受け、6回学系FDを実施した。</p> <p>各FDの内容は、発表者の最近の研究状況についての報告と質疑応答であり、ほぼ1時間～1時間半ほどである。FD参加の割合は、8割程度である。少なくとも発表した6人については、研究状況や関心、問題意識、課題などが参加した学系メンバーで共有した。各自の研究状況報告が一巡すれば、何らかの新しい研究活動の促進に向けての基盤が整うのではないかと期待される。</p> <p>本学系は法学、政治学、社会学という異なる専門分野の教員で構成しており、互いの研究についてほとんど知らないのがこれまでの状況であった。そのような状況では学系をあげての取り組みを考え、話し合う基盤がないこともあり、今回の企画は必要であったと考える。質疑の中で、ディシプリンを超えた質問もあり、新しい可能性を感じさせる部分も大いに見られた。</p>	<p>けて、まだ発表していない学系メンバーがまとめて発表する機会を作ることが望ましい。</p> <p>一巡後に、どのような新しいアイデアが出てくるのかが、最終的な課題である。</p>
心理・教育学系	<p>「研究談話会」を継続して開催し、さらなる研究の活性化を図る。</p>	<p>一部完了</p>	<p>本年度は、退任する3人の教員に講師を依頼したが、2人が辞退したため、1回の実施に留まった。</p> <p>2月22日16時45分から18時までの間、大学経営論の担当教員を講師として「研究談話会」を実施した。専門の大学経営論を中心として本学での研究、教育活動が報告された。参加した教員から質問や意見がだされ、本学の経営やFD活動に関して活発な意見交換がなされ、教員に経営という面からの所属大学に関する関心と知的刺激を与えられた。なお、今回の「研究談話会」の活動を通じて、学系内で大学の教育について語り合うことの重要性が認識された。次年度での新たな学系としての課題として、所属の教育組織に関する知識の共有を「研究談話会」の活動において図り、個々の研究・教育活動の理解をより深めたい。</p>	

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
中学校・高等学校	(1) 教員の教育力の向上 1) 研修制度の確立 ①初任者研修計画の作成 ②特別支援教育の研究 ③教科研修計画の作成、中間管理職研修計画の作成 2) 教員採用の複数化 ①多くの方法で優秀な教員を確保	完了	(1) - 1) - ①、③については、専任教員の面談、新任教員の継続的な研究会を実施した。また、中高協会、キリスト教学校教育同盟の研修会に参加し、海外研修（韓国）にも参加した。 (1) - 1) - ②については、個々の教員の研究に任せている。 (1) - 2) - ①については、採用時に多様な質問項目等を用意し、優秀な教員の確保をしている。	2012年度の中期目標に掲げている。
リベラルアーツ学群	FD活動を頻繁に行う。	一部完了	2-④と同様に、各学期に開催する研究会と2月のFD研修会において、教員間で教育・研究に関する情報交換と議論を行った。2011年度は、2月の研修会で、多くの教員が担当する「リベラルアーツセミナー」（必修）について内容や教育方法に関する議論を行った。取り組み結果で「一部完了」としたが、次年度もFD活動の継続予定している。	教育力に関しては、教員間の交流が重要となるため、引き続きFD活動を行っていききたい。
大学院	<国際学研究科> 大学院研修会、研究科委員会、専攻別会議でのFDに関する討議を一層活発にするために、年度毎に目標等を定め議論を深める。	完了	大学院研修会に参加するとともに、研究科委員会（博士前期課程／修士課程）および専攻会議でFDを行い、研究科改編のための検討を行った。	次年度も引き続きFDを実施する。
	<経営学研究科> 毎月大学院委員会の内容、大学院研修会等での議論・交流、本研究科委員会の意見などを集約し、問題点の検証を行い、改善に向けての話し合いをする。	完了	・2013年度の改編を前提に、授業内容、研究指導体制、成績評価（GPAを含む）等についての研究科委員会で検討を行い、見直しまたは関連作業の検討を行う。 ・毎月大学院委員会の内容、大学院研修会等での議論・交流、本研究科委員会で行われている問題点や改善などに対する議論などについて検討することで、研究科全体が共通基盤のうえに立って学生指導に当たることが可能となる。	引き続き、毎月行われている研究科委員会で、計画的で深い内容のFDを展開する。
	<言語教育研究科> 大学院研修会、研究科委員会、専攻別会議でのFDに関する討議を一層活発にするために、年度毎に目標等を定め議論を深める。	完了	大学院研修会に積極的に参加するとともに、毎月の研究科委員会、学期に1度ずつの研究科FD、さらに、必要に応じて各専攻会議や四役会議を開催した。	引き続き、大学院研修会への参加、研究科委員会、専攻別会議、研究科FDの開催を積極的に行う。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
大学院	<p><大学アドミニストレーション研究科> 大学院研修会、研究科委員会、専攻別会議でのFDに関する討議を一層活発にするために、年度毎に目標等を定め議論を深める。</p>	完了	<p>大学院研修会に積極的に参画するとともに、研究科委員会で2度の研究科FDを企画し、内1回は9月に実施し、もう1回は3月実施を予定している。 FDの企画は両専攻主任が持ち回りで責任をもち、1回は専任のみ、もう一回は兼任も含めという形で、内容と性格を明確にして、議論を深める工夫としている。</p>	引き続き、計画的で深い内容のFDを展開する。

4. 一貫教育の研究

- ⑥ 小学校、中学校、高校を含めた一貫教育システム、各設置校の連携が、本学園のビジョンの達成にどのように役立つのかを検証するための調査研究を行い、学園の可能性と課題を明らかにする。

主管部局（担当者）：幼稚園、中学校・高等学校、副学長

関連部局：学長特別補佐（企画政策担当）

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
幼稚園	一貫教育システムの在り方について継続協議	未着手		
中学校・高等学校	<p>(1) 生徒の理解力判断力の向上 1) 6ヶ年カリキュラムの再整備 ① 6ヶ年一貫教育の再検討の継続 ② 高校コース制の検討の継続 ③ 選抜クラスの進捗、内容の検討 ④ オリジナルテキストの作成 2) 大学との連携 ① 大学教育施設の利用計画 ② 教員研修の講師として大学教員の招聘プログラムの構築</p>	完了	<p>(1) - 1) - ①、②、③、④については、6ヶ年カリキュラムのあり方を検討、6ヶ年組と高校からの3ヶ年組を混同しないこととした。また、新しい学習指導要領に対応するカリキュラムを決定し、選抜クラスの方向性や変化する現状の生徒に対応するために検討を重ねた。 (1) - 2) - ①については、教員が個々に対応している。 (1) - 2) - ②については、大学学部・学科での学びを研究するとともに、学びの本質を知ることが目的で実施した。</p>	2012年度中期目標に掲げている。
大学院	<p><経営学研究科> BM学群学士課程と大学院との連携について検討をし、早期卒業見込者に経営学専攻授業を開放する。</p>	完了	<ul style="list-style-type: none"> 2013年度の改編時には、社会人のみならず、BM学群学士課程との学問的な連携が図れるよう、研究科教員に現状分析、対応、協力を求める。 2013年度の改革を前提に、2011年度から学士課程と大学院との連携についてすでに検討をし、2013年より開講をめざすISOグローバルビジネス領域を含む3領域科目からBM学群早期卒業見込者に開放する。 	引き続き取り組む。

担当 部門	実施計画	取り組 み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
大 学 院	<p><言語教育研究科> 2013年度の改編時には、学士課程との学問的な連携が図れるよう、学士課程との協力体制を構築し、特に400レベルの科目を大学院として開設し、学士課程の学生に大学院生との合同授業の開設のための準備を進める。</p>	一部 完了	2013年度からは学士課程の学生にも開放する科目の洗い出しを行うなど、連携方法の検討を行って、ほぼ科目の案も出ている。どのように単位化するかなど問題点は、十分な時間がなかったため、今後の検討課題とする。	科目内容の検討が引き続き必要である。
	<p><大学アドミニストレーション研究科> 2013年度の改編時には、学士課程との学問的な連携が図れるよう、学士課程との協力体制を構築し、特に400レベルの科目を大学院として開設し、学士課程の学生に大学院生との合同授業の開設のための準備を進める。</p>	一部 完了	2013年度からは学士課程の学生にも開放する科目の洗い出しを行うなど、連携方法の検討を行った。実際に単位化の際の問題点など、詰めなければならない課題がある。	制度と実際面から本格的な検討を必要としている。
	<p><老年学研究科> 独立型大学院という位置づけであるために、現時点では、学士過程との連携が全くとられていない。</p>	一部 完了	30%完了している。大学院と学士課程の科長・学群長の意見交換および学士課程の老年学において大学院の紹介、学士課程学生向けガイダンス等を実施している。	次年度も継続した取り組みをする。

Cornerstone 3 : 高度に国際化された教育システムの確立

1. 外国語教育の強化

① 英語、中国語、韓国語等の外国語教育を強化する。

主管部局 (担当者) : 中学校・高等学校、基盤教育院

関連部局 : 教育・研究支援センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
中学校・高等学校	<p>(1) 多文化社会への共生を具体化する</p> <p>1) 外国語教育の強化</p> <p>①英語教科カリキュラムの再構築</p> <p>②英語科教員の教科力UPプログラムの構築</p> <p>③新しい教科書の導入</p> <p>④イングリッシュプレゼンテーションの充実</p> <p>2) 第二外国語の充実</p> <p>①中学校での導入の検討の継続</p> <p>②高校の教育内容の充実の継続</p> <p>3) 大学留学生との交流</p> <p>①異文化体験プログラムの充実</p> <p>②イングリッシュキャンプの実施の継続</p> <p>③学園内留学の設定。中高生と留学生が共に過ごす時を持つ</p>	一部完了	<p>(1) - 1) - ①、④については、着手に向けて検討を始めている。</p> <p>1) - 1) - ②、③については、2011年度より『NEW TREASURE』を導入した。また、2012年度からの教科カリキュラムを検討した。</p> <p>(1) - 2) - ①については、中学3年生に対して、コリア語、中国語を開講。高校については検討中。</p> <p>(1) - 3) - ①については、未着手。</p> <p>(1) - 3) - ②については、完全な英語だけの環境とは言えないが、夏期にキャンプを実施した。</p> <p>(1) - 3) - ③については、未着手。</p>	2012年度の中期目標に掲げている。
基盤教育院	外国語科目全体の「質」の向上をめざす。公的試験の導入と合わせ、各レベルの目標を明確にする。現存の18の外国語およびレベルについても見直しを進める予定。	一部完了	<p>外国語科目全体の「質」の向上をめざすため、以下のことを行った。すべて、2012年度以降も継続して実施することである。</p> <p>1. 現存の18の外国語とレベル見直しの一環として、2012年度の方針を以下のように定め、非常勤講師に通達した。</p> <p>① I～IVレベルのすべてのクラスについて、外国語の必修単位を満たしていない学生がいる場合を除き、原則として5人未満の場合は閉講とする。</p> <p>② V～VIレベルのクラスについて、原則として、該当レベルに1クラスしかない場合、5人未満でも閉講とする。</p> <p>③ 5人未満の授業が過去に遡り数年間続いているレベルの科目は、廃止科目の対象とする。</p> <p>④ 先修条件解除（飛び級）の手続時期を早め、5人未満のクラスの開講/閉講の判断時までには判定を終えるようにする。</p> <p>2. 非常勤講師の質の確保をめざし、以下のことを行った。</p> <p>① 最新の履歴書および業績一覧の提出を求めた。(2012年3月実施予定)</p> <p>② OBIRIN Gmailアドレス取得を求めた。</p>	言語およびレベルごとの履修者の動向を精査し、2013年度に向けてさらに科目とレベルの見直しを進める。非常勤講師を対象としたFDを実施して、教員の質の向上をさらに図る。公的試験の導入を進め、学習の動機付け向上をめざすとともに、成果の可視化を図る。「桜美林大学言語パスポート」の実用化や留学生との交流を通し、習った外国語を使う機会を増やす。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
基盤教育院			3. 公的試験の導入状況 ①英語は、プログラムの前後（プレースメントと学期末）に公的試験CASECを実施し、両者の得点比較により学習の効果をみる事ができた。 ②韓国語、中国語では積極的に公的試験の受験を勧め、効果を上げている。 4. 学習目標と成果を記述することによって学生の外国語学習の動機付け向上および学習推進を目的とした「桜美林大学言語パスポート」構想を進め、「外国語教育将来構想委員会」にてパイロット版を作成した。	

② 外国語の公的試験をカリキュラムに組み入れる。

主管部局（担当者）：基盤教育院

関連部局：教育・研究支援センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
基盤教育院	可能な限り多くの外国語での公的試験の導入を進める。	一部完了	公的試験の導入状況 ①英語は、プログラムの前後（プレースメントと学期末）に公的試験CASECを実施し、両者の得点比較により学習の効果をみる事ができた。 ②韓国語、中国語では積極的に公的試験の受験を勧め、効果を上げている。	公的試験の導入を進め、学習の動機付け向上をめざすとともに、成果の可視化を図る。

2. 英語による学位取得コースの開設（大学）

③ 留学生のニーズを調査し、専門分野とカリキュラムを決定した上で、英語による学位取得コースを開設する。

主管部局（担当者）：学長特別補佐（国際戦略担当）

関連部局：教育・研究支援センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学長特別補佐（国際戦略）	【大学院】 2013年度の改編に向けて、英語による学位取得コースの設置の可能性を含めて検討する。 【国際交流センター】 ①JASSOその他が実施する日本留学フェアの未参加のフェア（マレーシア、タイ、ベトナム、インドネシア、モンゴル、インド、中東、中央アジアなど）に参加し、現地学生や高等教育機関のニーズをくみ上げる。	一部完了	特別補佐（国際） ・ニーズに関しては、留学フェアなどでヒアリングを行い、外国人留学生のニーズを調査。 ・供給については、全教員を対象にした語学力・留学経験の調査結果を分析。 ・プロジェクト・チーム（5人）を立ち上げた。 ・LA学群の中で日本地域研究（E）のマイナー（＝「RJプログラム」）を中心として設置する方向で協議が進んでいる。 ・カリキュラム案を作成した。	「institute」構想と関係づけることができるかどうか、要検討。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学長特別補佐 (国際戦略)	②引き続き、英語学位コースを置く日本の大学を訪問、ヒアリングを行う。 ③学内においては、英語学位コース設置PTを定期的に開催し、教員アンケートの更新（新任教員へのアンケートなど）や、専攻の決定、教員の配置およびリクルートについて協議を重ねる。		「取り組み結果」欄で一部完了とした理由については、このアクションは2014年度までに完了させる予定だったためである。	
大学院	<経営学研究科> 中国語での論文作成についても引き続き議論する。	一部完了	<ul style="list-style-type: none"> ・「Academic English」の開設に伴い、大学院生特に留学生の満足度が高められるとともに、学習効果があがる。 ・「Academic English」からヒントを得て、研究科における留学生が大多数を占めている状況から、中国語での論文作成についても引き続き議論する。 	引き続き検討する。
	<大学アドミニストレーション研究科> 2013年度の改編に向けて、英語による学位取得コースの設置の可能性を含めて検討する。	完了	2013年度からは旧来の英語による3科目に加え、英語だけでも履修できる科目（日英科目）を相当数準備する改革案ができており、修士論文の英語での作成はすでに実績があり、英語による学位取得コースが2013年度の改編で実現する見通しである。	改革案を現実化する。

④ 海外とのダブルディグリープログラムを導入する。

主管部局（担当者）：学長特別補佐（国際戦略担当）

関連部局：教育・研究支援センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学長特別補佐 (国際戦略)	<p>【大学院】 2013年度の改編に向けて、ダブルディグリー制度を設けたい。</p> <p>【国際交流センター】 既存プログラムの精力的な募集・派遣、また継続協議中プログラムの協議進展を図る。また提携校や「GOプログラム」派遣校等と新規DDプログラムの可能性を打診する。また、中国・アジア圏の大学からの提案も予想されるので、それらを積極的に考慮する。</p>	一部完了	<ul style="list-style-type: none"> ・サンフランシスコ州立大学ダブルディグリー（DD）プログラム継続中。 ・天津外国語大学（受入）DDプログラム継続中。ただし、震災で2011年度4月入学はキャンセル。 ・2008年にダナン大学から提案。協議継続中。 ・2009年度にブロック大学へ提案。協議継続中。 ・2009年に同済大学とのDDプログラムを孔子学院が提案。現在保留中。 ・2010年にハノイ国民経済大学から提案。協議継続中。 ・2011年5月に東北師範大学から提案。協議継続中。 ・韓国文化言語学堂が明知大学、関東大学、韓瑞大学とDDプログラムを協議中。 	サンフランシスコ州立大学DDプログラムをはじめ、派遣する学生の募集に苦渋している。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学長特別補佐 (国際戦略)			・「取り組み結果」欄で、一部完了とした理由については、このアクションは「完了する」という性質のものではなく、5年間にわたって（そしてその後も）継続していくものであるため。	
大学院	<言語教育研究科> 2013年度の改編に向けて、ダブルディグリー制度を設けたい。	一部完了	日本語教育専攻では、2013年度から外国の大学とのダブルディグリー制度の検討をはじめたが、提携大学を決定していないため、具体案には至っていない。	引き続き検討する。
	<大学アドミニストレーション研究科> 2013年度の改編に向けて、ダブルディグリー制度を設けたい。	一部完了	提携校のオスロ大学の担当者との間で、ダブルディグリー設定の可能性について検討している。 この提携では、今のところオスロ大学からの来訪学生しかおらず、日本側からの派遣学生の実績をつくる必要がある。	引き続き検討するとともに、相互交流の実績が課題となっている。

3. 留学生受け入れプログラムの充実

⑤ 留学生の住環境整備。

主管部局（担当者）：学生センター

関連部局：キャンパスデザイン・管理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター	<学生生活支援課> 1. 数的整備に向けた地域対策 旧国際交流センターが試算している2020年までの「受入留学生4倍計画(案)」における今後4年間の留学生数と現在の居住形態別入居比率を鑑みた場合、2014年度の近隣民間アパートへの入居予定者数が1,193人（2010年度の2.4倍）と想定される。こうした観点から、近隣不動産との連携整備をはかり、今後の留学生受入数に耐えうる事前調整を行う。 2. 国際寮運営整備 国際寮の稼働率の向上と安定を図るために、ソフト面に視点をおき、検討と試行錯誤を行う。特に、他大学等の寮運営の視察を行う。その上で充実化をはかり、国際寮のブランド化を図る。また、Cタイプの多様な運用方法を検討し、今後、利用者が増加するための事前対策を行う。	一部完了	今年度は、2014年度までの留学生の住環境整備に向けた検討および一部整備着手に取り組んだ。 単年度目標としての取り組み結果は一部完了である。これは、7月の事務組織改編に伴い、近隣地域対策案件の引き継ぎが十分でなかったことが原因である。 なお、2014年度までに行うべき住環境整備の目標達成到達度合いとしては1/4と考える。 1. 近隣地域対策の取り組み内容 ・主な取り組みなし 2. 国際寮運営整備 ・立命館アジア太平洋大学、国際教養大学の学生寮視察、意見情報交換 ・共立メンテナンスとの情報交換、寮視察による情報提供 ・レジデンスアシスタント制度の導入 ・レジデンスアシスタントを核としたソフトコンテンツ開発と実施	2011年度は国際寮の稼働率向上と運営の安定化に注力した。2012年度は、引き続き国際寮の運営強化に加え、今年度取り組みができていなかった近隣地域対策や留学生数の拡大にともなう他の受入候補施設の調査とその活用について検討を進める。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター			<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス等を通じた新入生の募集強化 ・Cタイプの2人部屋制度導入 ・2012年度の稼働率9割達成と寮生の質向上に向けた構想検討開始 ・運営強化と業務簡素化に向けた仕組みづくり（デポジット制度等） 	

⑥ 留学生対応の教職員やカウンセラーの充足。

主管部局（担当者）：学生センター

関連部局：総務・人事センター、大学院

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター	<p><学生生活支援課> 留学生対応教職員・カウンセラーの数的向上 正規留学生400人を専任職員・非常勤職員各1人で対応をする場合、その業務に限界があることから、教員や他部署との関わり合いを増す方向を模索し、各学群・院の学生委員会の改組と組織強化を検討する。</p>	完了	<p>今年度は、2014年度までに留学生対応の教職員やカウンセラーの充足をめざし、教職員連携の模索と検討に向けた枠組みづくりを行った。 単年度目標としての取り組み結果は完了であり、2014年度までに行うべき連携体制の構築に向けた目標達成到達度合いとしては1/3と考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員連携 <ul style="list-style-type: none"> ・全学学生委員会や留学生国際交流委員会での情報提供と連携強化の呼びかけ ・学群のFD研修での情報提供と連携のあり方検討 2. 学生委員会の改組・組織強化 <ul style="list-style-type: none"> ・全学学生委員会の改組（2012年度）にともない、報告連絡会議から課題検討会議への仕組み化 	2011年度の教職員連携の模索と検討に向けた枠組み作りを受け、2012年度は具体的な連携構築に着手する。
大学院	<p><経営学研究科> 留学生の論文作成のための日本語支援体制の構築</p>	一部完了	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生が多数を占めている本研究科では学術論文の書き方授業を必須で取り組んでおり、一定の効果が現れている。 ・留学生にとっては論文の書き方のみならず、日本語で論文を作成する際の日本語の添削や指導体制を整えることが必要であり、特に留学生が多数を占めている本研究科では早急に解決すべき課題となっている。 	本格的な検討と解決が必要としている。

⑦ 留学生経済支援制度の強化。

主管部局 (担当者) : 学生センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター	<p><学生生活支援課> 2011年度より新たに導入される奨学金制度が運用されることから、その状況を見ながら、制度の充実を図る。 また、他大学の対留学生奨学金制度などを研究、取りまとめを行い、2012年度以降、制度の充実と拡大に向けた検討案がだせるようにする。</p>	完了	<p>今年度は、2014年度までの奨学金制度整備に向けた検討材料の取捨および検討のための枠組みづくりを行った。 単年度目標としての取り組み結果は完了であり、2014年度までに行うべき奨学金制度整備、新たな奨学金制度の構築における目標達成到達度合いとしては1/3と考える。</p> <p>1. 奨学金制度に関する検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2010年度までの奨学金制度および2011年度よりスタートした新奨学金制度の受給状況の振り返りによる制度の課題案件の洗い出し ・全学学生委員会の組織改組 (2012年度より) による経済的支援の課題を検討する枠組みづくり <p>2. 2012年度以降の奨学金制度拡充検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業奨学金 (仮称) に関する素案作成 ・他大学の事例研究 	<p>2011年度は奨学金制度の拡充に向けた検討材料探しや検討を行う仕組みづくりを主としていた。 2012年度は検討された案件の具体化に向けて協議し、2013年度以降に奨学金制度改革や新制度を導入予定。</p>

⑧ 留学生就職支援の充実。

主管部局 (担当者) : キャリア開発センター

関連部局 : 学生センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キャリア開発センター	(1) 学群、大学院留学生支援担当キャリアアドバイザーの配置	完了	<p>学群、大学院留学生支援担当キャリアアドバイザーの配置について 16人を4人ずつに分け、4班体制としているキャリアアドバイザーにおいて、うち1班を外国人留学生フォロー班として設定し、イベント時のアドバイスフォローを行った。なお、通常の3・4年生向けの就職相談では、16人のアドバイザーが1学年につき3～4人ずつの配分で留学生を担当した。</p> <p>何が、どのように変わったのか 上記対応策の結果、キャリア開発センターに足を運んでくれる外国人留学生にとっては、日本人学生と同様に、進路や就職活動についての様々な助言や支援を受け、モチベーションアップにつながった。 また、キャリアアドバイザーの班体制において外国人留学生向けイベントフォロー班</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生のイベント集客率が伸びなかったため、改善が必要。 ・大学院生へのフォロー不足のため、そのフォロー強化。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キャリア開発センター			<p>を設けたことで、学内・学外における支援セミナー等でも、そのイベントに参加した学生への個別相談を行い、支援数の底上げができた。</p>	
	(2) インターンシップ等の機会提供	完了	<p>インターンシップ等の機会提供について 外国人留学生でキャリア開発センター管轄のインターンシップに参加した学生は8人であった。(派遣先も同数)</p> <p><参考>日本人学生も含めたキャリア開発センター扱いのインターンシップ ・参加者数：139人 ・派遣先数：71社</p> <p>何が、どのように変わったのか 上記対応策の結果、外国人留学生も日本の企業等の社風や文化を体感し、就職活動を行うに当たっての自信につながった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生のイベント集客率が伸びなかったため、改善が必要。 大学院生へのフォロー不足のため、そのフォロー強化。
	(3) 留学生対象の就職説明会の開催	完了	<p>留学生対象の就職説明会の開催について 留学生対象の就職説明セミナーは、7・10・11・12月に1回ずつ、土曜日を終日利用して行う3年生向けの就職イベント(「キャリアフェスタⅠ～Ⅳ」)の中や、5月に行われる4年生対象の「学内企業面談会」の中で、計12コマ行ったが、参加者の総数は12人であった。</p> <p><参考>日本人学生も含めたキャリアフェスタ(CF)Ⅰ～Ⅳの参加者数 ・CFⅠの参加者数：346人 ・CFⅡの参加者数：562人 ・CFⅢの参加者数：579人 ・CFⅣの参加者数：474人 合計：1,961人</p> <p>何が、どのように変わったのか 上記対応策の結果、外国人留学生のキャリア開発センターに対する認知度がアップし、学生生活への安心感と将来への自信を持てる留学生が増加した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生のイベント集客率が伸びなかったため、改善が必要。 大学院生へのフォロー不足のため、そのフォロー強化。
	(4) 留学生に対する情報提供の強化	完了	<p>留学生に対する情報提供の強化について 留学生に対する情報提供方法は、キャリアアドバイザーからの配信に併せ、学生センターを通じてのメール配信、e-Campusでの配信、授業でのチラシ配布などで周知を図った。</p> <p>また、大学院生に対しても、e-Campusや一部の授業を通じて情報提供を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生のイベント集客率が伸びなかったため、改善が必要。 大学院生へのフォロー不足のため、そのフォロー強化。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キャリア開発センター			<p>何が、どのように変わったのか 上記対応策の結果、外国人留学生のキャリア開発センターに対する認知度がアップし、学生生活への安心感と将来への自信を持てる留学生が増加した。</p>	
	(5) 外部支援団体との関係強化	完了	<p>外部支援団体との関係強化について かねてより協力関係を構築して来たNPO法人留学生職業能力開発センター（CDC）が、2011年度よりキャリアフェスタを始めとする学内イベントにも参加可能となった。また、以下の団体との定期的な情報交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人 留学生職業能力開発センター（CDC） ・特定非営利活動法人 JAFSA（国際教育交流協議会） ・特定非営利活動法人 国際留学生協会 IFSA就職支援情報サービス ・東京外国人雇用サービスセンター ・大阪府グローバル人材活用推進プロジェクト事務局 ・パソナグローバル事業部 ・ディスコキャリアエージェント ・GLナビゲーション <p>何が、どのように変わったのか 上記対応策の結果、外国人留学生のキャリア開発センターに対する認知度がアップし、学生生活への安心感と将来への自信を持てる留学生が増加した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生のイベント集客率が伸びなかったので、改善が必要。 ・大学院生へのフォロー不足のため、そのフォロー強化。

⑨ 海外拠点、海外連携大学等との共同プログラムによる留学生アドミッションの充実。

主管部局（担当者）：入試広報センター

関連部局：国際センター、北京事務所

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
入試広報センター	<p>昨年度の業務水準と成果を維持発展させることを大前提としている。中国のみならず米国事務所と連携をはかるべく、国際戦略本部の協力のもと推し進める。また、日本語スピーチの主権団体とも具体的な策を推し進め、日本語に堪能でかつ留学意欲の高い学生を「特別奨学生選抜」の受験まで引きつきたいと計画している。</p>	一部完了	<p>海外で予選が行われ、国内で決勝戦が行われる日本語スピーチの実施団体とも協議が進み、2012年度選抜では日本語に堪能でかつ留学意欲の高い学生6人が「特別奨学生選抜」を受験し、2人の学習意欲の高い留学生を確保できた。</p> <p>また、海外連携大学等の取り組みについて北京事務所とは連携が取りながら実施したが、米国事務所と今年度は連携していない。</p>	

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
大学院	<経営学研究科> 留学生教育における質向上のための方策について検討を行う。	完了	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き留学生アドミッションの充実をはかった。 一環教育プログラムとして大連外国語大学からの留学生の受け入れ（受け入れ人数が多い）を継続し、入学前の対面教育を充実した。 中間発表に在籍大学院生が全員出席し、参加後の感想などを各所属ゼミで交流した。 	随時検討しさらなる向上を図る。
	<言語教育研究科> 中国、台湾、韓国、その他の国からの留学生を増やすための方策について検討を行う。	完了	日本語教育専攻では中国の提携校からの受け入れを実施した。英語教育専攻でも中国からの留学生の英語による論文発表や論文執筆を受け付けた。	引き続き一層の推進をめざす。
	<大学アドミニストレーション研究科> 中国、台湾、韓国、その他の国からの留学生を増やすための方策について検討を行う。	完了	2013年度より英語でも履修できる科目を明確に打ち出し、英語で学位取得ができるようにするなど、留学生増加の方策を検討した。	計画を着実に実行することが求められる。

4. 留学生派遣プログラムの充実

⑩ 派遣留学、海外実習の準必修化。

主管部局（担当者）：学長特別補佐（国際戦略担当）

関連部局：教育・研究支援センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター	<国際学生支援課> 既存プログラムへの参加者数増加を図るとともに、各学群に依頼した留学プログラム準必修化の議論を促進する。 その際、OGFAなどのネットワークを利用し、適当な派遣先を提案してもらう。	完了	<ol style="list-style-type: none"> 既存プログラムへの参加者数増加を図る。 2011年派遣者数：562人（前年比+13人） 震災による「GOプログラム」等の派遣減を短期研修の派遣増でカバーした。 留学プログラム準必修化の議論を促進（OGFAネットワーク利用）。 中期目標の設定に伴い、各学群生の留学促進と学群内での留学プログラム準必修化の議論を高めるため、2010年度から2011年度にかけて、OGFAエグゼクティブ・ディレクターが特定の学群生を主なターゲットとした「アメリカグローバルビジネス研修」「アメリカボランティア研修」「アメリカ幼児教育研修」「アメリカスポーツ研修」「アメリカ映画研修」などをデザイン・提案した。 	<ol style="list-style-type: none"> 震災等の影響により参加者減となった「GOプログラム」およびTOEFL®スコアの下落や内向き志向等により参加者が増えないJYA/中国長期留学の参加者数の増加。 各学群生のニーズや学群のカリキュラムに一層合致したプログラムのデザイン・提案の継続。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター			このうち2011年度に催行されたのは「アメリカグローバルビジネス研修」「アメリカボランティア研修」のみであったが、初年度にもかかわらずそれぞれ22人、12人の参加者を得、成功裏に終了した。 また、2011年度はBM学群で5研修と留学プログラムのラインアップが充実し、一層の留学促進への方向性を打ち出している。 2012年度はプログラム実施の成果が集積されることから、学群生や学群の留学への需要がより高まり、各学群の留学準必修化に拍車がかかると考える。	
大学院	<言語教育研究科> 派遣留学や海外実習の実施、準必修化を計画する。	一部完了	日本語教育専攻では、米国ハワイ大学大学院での日本語教育インターンシップを実施した。カリキュラム上の準必修化は考えていない。	日本語教育におけるインターンシップは、引き続き実施し、さらに、その内容・規模の拡充・拡大を検討する。

⑪ 派遣留学、海外実習プログラムの拡充と多様化の推進。

主管部局（担当者）：中学校・高等学校、学長特別補佐（国際戦略担当）

関連部局：学生センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
中学校・高等学校	(1) 多文化社会への共生を具体化する 1) 海外研修の推進 ①体験型プログラムの充実 ②語学研修型プログラムの充実 ③創業者探求型プログラムの模索 ④海外ワークキャンプへの参加 2) 海外からの受入プログラム、各教科教育との連携 ①海外からの受入プログラムの充実	一部完了	(1) - 1) - ①については、韓国・細花高校と実施した。 (1) - 1) - ②については、ニュージーランド・セントケビンズ、イギリス・チェルトナムで実施した。 (1) - 1) - ③については、創立90周年記念として陳経綸中学を訪問した。 (1) - 1) - ④については、未着手。 (2) - 1) - ①については、韓国・細花高校から受け入れた。	2012年度の中期目標に掲げている。
学生センター	<国際学生支援課> 既存・新プログラムの学内周知を徹底し（学内留学フェア、学群オリテ、説明会の増加など）、参加者の増加を図るとともに、参加者へのレビューにより内容の改善、新プログラムの企画などを行う。 国内外の高等教育機関を視察訪問し、新プログラムの可能性を探る。 学内的にはより一層の拡充・多様化のために各学群・大学院やOGFAとの議論を促進する。	完了	1. プログラムの周知と内容の改善、新プログラムの企画。 プログラムの周知については、各学群との協働をより密にし、学群オリエンテーションや講義内での説明を強化した。また、各学期に行う学内留学フェアも教員によるレクチャーを増加し、参加者を前年度比2.5倍とすることができた。 内容の改善および新プログラムの企画については、GOプログラムの内製化により、LA学群との協働が進み、事前学習がより充	1. 派遣プログラム全般の更なる周知と、2013年秋季学期からの新規プログラムの周知、またJYA/中国長期留学派遣者増加のための説明会、TOEFL®対策講座、事前・事後学習などの充実。

担当 部門	実施計画	取り組 み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生 セン ター			<p>実した。短期研修についても、基盤教育院の方針等により、事前事後学習が必須となり、各研修の学習効果が向上した。</p> <p>また、新規プログラムはOGFAのイニシアチブにより、年度内に北米7校の新規提携校ができ、JYA/SYA、「GOプログラム」の参加学生の派遣先となった。さらに、短期研修では新規に「アメリカグローバルビジネス研修」、「アメリカボランティア研修」が企画・実施されたが、特に前者はOGFAのコネクションで現地の日米協会が受け入れ機関となり、アトランタの日本領事館やJETRO、日米の代表的な企業への訪問が可能となった。これまでにない質と規模の短期研修が加わったといえる。</p> <p>2. 国内外の高等教育機関を視察訪問し、新プログラムの可能性を探る。</p> <p>年度末にOGFAエグゼクティブ・ディレクターと国際センター長が北米の提携・非提携校を回り、新プログラムに関する打合せを行った。また、国内では国際化が進んでいる立命館アジア太平洋大学および国際教養大学を訪問し、国内交換留学プログラムや先輩学生が引率する超短期海外研修などについて研究した。</p> <p>3. 学内的にはより一層の拡充・多様化のために各学群・大学院やOGFAとの議論を促進する</p> <p>OGFAエグゼクティブ・ディレクターが今年度3度来日し、各学群・大学院の留学担当教員と新規プログラムなどについて議論した。また、「留学生・国際交流委員会」が新体制で発足し、教学・事務両部門の担当者と派遣プログラムの現状と課題などについて議論した。</p>	<p>2. 国外はオセアニア・ヨーロッパ地域、国内はその他国際化が進捗している高等教育機関への訪問。</p> <p>3. 「留学生・国際交流委員会」に「派遣留学小委員会」などを設置し、同委員会でのプログラムの検討など。</p>
大学 院	<p><大学アドミニストレーション研究科> 研究科・専攻に見合った留学制度を設定するための検討を行う。</p>	一部 完了	<p>提携校のオスロ大学への留学制度の確立を検討している。</p> <p>現在はオスロ大学からの来訪学生しかおらず、日本側から派遣学生の実績をつくる必要がある。</p>	<p>引き続きの検討と実績づくりが課題となっている。</p>

5. 留学生との交流

⑫ キャンパスにおける留学生と日本人学生の交流。

主管部局 (担当者) : 学生センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター	<p><国際学生支援課></p> <p>①各学期に芦ノ湖・山中湖でインターナショナルキャンプを実施。</p> <p>②各学期にRJ考察日本オリエンテーションのための「バディプログラム」を実施。本学での新生活をアシスト。</p> <p>③RJ考察日本の日本語クラスでネイティブアシスタントとしての日本人クラスゲストを募集。</p> <p>④本学孔子学院が実施する「中国語広場」や「春節を祝う会」などで中国人留学生および日本人学生が交流。</p> <p>⑤桜美林生協主催の「生協留学生委員会」の各種交流行事について情報告知・留学生募集などをアシスト。</p> <p>⑥留学生と日本人学生の交流イベント「留学生国際フェスティバル (仮称)」のようなイベントを実施予定。また、国際寮においても、在館学生を中心に、各種交流イベントを実施予定。</p>	一部完了	<p>①各学期に芦ノ湖・山中湖でインターナショナルキャンプを実施。それぞれ80人、152人の参加者があり、盛況のうちに終了した。</p> <p>②各学期にRJ考察日本オリエンテーションのための「バディプログラム」を実施。本学での新生活をアシスト。春秋両学期で合計168人の日本人・留学生がバディに応募し、新RJ考察日本留学生のために、オリエンテーション、キャンパスツアー、外国人登録・国民健康保険手続、淵野辺・町田・相模原ツアーなどをアシストした。早い段階で友人を得ることにより、留学生の留学生活がより自立的になる効果があった。</p> <p>③RJ考察日本の日本語クラスでネイティブアシスタントとしての日本人クラスゲストを募集。 2011年度春秋学期合計244人が登録し、合計118人が日本語クラスで留学生の日本語学習のアシストをした。これにより、日本人学生は、多言語多文化共生時代に求められる新しい視点を得、コミュニケーション・スキルを高めることができた。また、留学生は同年代の母語話者とのオーセンティックなやりとりを通し、学習の動機を高めることができた。</p> <p>④本学孔子学院が実施する「中国語広場」や「春節を祝う会」などで中国人留学生および日本人学生が交流。 2011年度は「中国語広場」や「春節を祝う会」に、中国人留学生・日本人留学生がそれぞれ388人、および300人が参加し、日中文化の相互理解を深めた。</p> <p>⑤桜美林生協主催の「生協留学生委員会」の各種交流行事について情報告知・留学生募集などをアシスト。 春秋学期の留学生受入オリエンテーション等に「生協留学生委員会」を招待し、委員会の紹介やウェルカムパーティーでのイベントを企画してもらった。これにより、委員会の行うバザーや日本文化イベントに</p>	<p>①「芦ノ湖キャンプ」のコストダウン</p> <p>②「バディプログラム」のアシスト範囲の拡大や機能向上</p> <p>③クラスゲストの質向上</p> <p>④より多くの中国人留学生・日本人学生の参加</p> <p>⑤生協留学生委員会のイベントへの留学生の参加率向上</p> <p>⑥全学での留学生祭のようなイベントの実施</p>

担当 部門	実施計画	取り組 み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生 セン ター			<p>より多くの留学生が参加でき、留学生は経済的にも文化的にも利益を受けることができた。</p> <p>⑥留学生と日本人学生の交流イベント「留学生国際フェスティバル（仮称）」のようなイベントを実施予定。また国際寮においても、在館学生を中心に、各種交流イベントを実施予定。</p> <p>「留学生国際フェスティバル（仮称）」については実施できなかった。理由は、一定以上の規模の留学生による実施団体を組織できなかったため。</p> <p>「国際寮の各種交流イベント」は、国際寮長のイニシアチブにより各種委員会が組織され、語学講座、小旅行、各種パーティーなどが実施された。これにより、国際寮の寮生に自治意識が生まれ、教育寮としての機能の基礎ができた。</p>	
高 中 等 学 校 ・ 学 校	<p>(1) 多文化社会への共生を具体化する</p> <p>1) 大学国際交流センター（現：国際学生支援課）との連携</p> <p>①連携への計画作成・実施</p>	未着手	(1) - 1) - ①については、未着手。	2012年度中期目標に掲げている。
マ ネ ジ メ ン ト 学 群	前年度に引き続き（BM学群留学生と教員・日本人学生との交流会を）実施（年2回：歓迎会と歓送会のかたちをとる）	完了	<p>春学期入学の留学生をゲストとした交流会（歓迎会）と、秋学期入学の留学生と秋学期卒業予定者をゲストとした交流会（歓送迎会）を開催した。</p> <p>学生による企画・運営の試行も成功し、手作りで温かみのある交流会を開催することができた。また、ホットケーキづくりのパーティーの形をとることで予算削減にもつながった。</p>	

Cornerstone 4 : 地域貢献力の強化

1. 地域発展の支援

- ① 地域の文化社会的発展に関する学術面での支援体制を充実し、地域の発展に貢献できる活動を実施する。

主管部局 (担当者) : 経営企画室 (地域連携)

関連部局 : 総合研究機構

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
経営企画室 (地域連携推進室)	<p>①総合型地域スポーツクラブ (多摩市) 運営強化 多摩市および多摩市民との連携を強化。</p> <p>②地域社会との連携強化 (町田市・相模原市・多摩市) 各行政機関と連携・情報共有を行い、また、学内教学系との連携を強化し、仕組み、仕掛けを検討。</p> <p><継続案件> 「淵野辺駅周辺活性化プロジェクト」(全学群対象) 「音楽フェスタ」(総合文化学群) 「さがまちパンパン (さがまちコンソーシアム主催: 学生による8分番組制作: J:COMにて放映)」(全学群対象) 等、地域市民、団体参加型の交流プロジェクト行う予定。 近隣小中学校との連携を強化し、活動の幅を広げる。</p> <p>①町田市では、町田市観光コンベンション協会と協働で、異文化交流等のプランもあり、留学生が日本文化に触れる機会を作る。また、地域の方々との「ふれあいの場」もあわせて機会提供していく予定。(自治会連合会、商店街、商工会議所等の団体との情報交換を活発にし、本学のリソースの有効活用を検討)</p> <p>②相模原市では、2011年度より「アートラボはしもと」構想による連携を強化していく予定。</p> <p>③多摩市では、「桜美林大学総合型地域スポーツクラブ」を実施。行政との連携強化を図る。</p>	完了	<p>取り組み結果は、下記月次順に掲載。</p> <p>【2011年4月】 (1)「桜美林大学吹奏楽団チャリティーコンサート」(義援金活動): 4月17日、会場: 淵野辺駅北口ペディストリアンデッキ、主催: 本学、協力: にこにこ星ふちのべ協同組合 (2)「桜美林大学Numbers写真展」(総合文化学群): 4月20日~5月8日、スーパー三和とコラボ、「アメリア町田根岸ショッピングセンター」オープニング記念、会場: ショッピングセンター2階「市民ギャラリー」</p> <p>【2011年5月】 (3) 淵野辺駅前商店街主催「東日本大震災復興チャリティーイベント」: 5月29日、会場: 淵野辺駅北口ペディストリアンデッキ、主催: にこにこ星ふちのべ協同組合 (本学より多数の学生団体が協力、参加)</p> <p>【2011年7月】 (4)「桜美林大学総合型地域スポーツクラブ」9月開設 (多摩アカデミーヒルズ): 無料体験教室7月10日、8月7日実施 (5) JAXAと本学音楽専修のコラボ企画「宇宙と音楽のタベVol. 1」: 7月10日、会場: PFC、主催: JAXA、本学 (入場者200人)、復興チャリティー募金を実施) (6) 淵野辺駅周辺活性化プロジェクト(主催: 本学): BM学群を中心に淵野辺駅周辺の商店街と相模原市とタイアップして『地域活性化情報誌』を発行予定。8月6日~7日にPFC前ロータリーで開催した「ふちのべ銀河まつり」で配布。 (7) さがみはら宇宙プロジェクト「スペースアート展」: 7月18日~8月7日、会場: PFC、主催: 相模原市、後援: JAXA、協力: 本学 (8) 町田市教育委員会「小中学校教員研修会」: 7月25日~26日、会場: 多摩アカデミーヒルズ (小中教員参加者延べ600人)、主催: 町田市教育委員会、協力: 本学</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全学群および各学内学生団体が実施する様々な取り組みに対して、情報公開、情報収集を行い、「桜美林大学生」の活動、活躍を幅広く知っていただけるよう工夫をする。 各教員の地域連携活動 (行政からの委嘱業務等) をサポートし、本学の持つリソースを活かせる体制を構築する。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">経営企画室 (地域連携推進室)</p>			<p>【2011年 8月】</p> <p>(9)「福生市七夕まつり」に下記2チームが出演(お祭り延べ来場者30万人): 8月4日、6日、7日、ソングリーディング部CREAM、チアリーディング部</p> <p>(10)「ふちのべ銀河まつり」に実行委員会運営スタッフとして学生多数参加: 8月6日～7日、大学祭実行委員、LA学群、BM学群、総文学群の学生が参加、会場: PFC前バスロータリー、主催: ふちのべ銀河まつり実行委員会、後援: 相模原市、本学、その他</p> <p>(11) 相模原市中央区光が丘地区「ふるさとまつり」運営スタッフとして大学祭実行委員5人が参加: 8月20日、会場: 相模原市立光が丘小学校、主催: 相模原市中央区光が丘公民館</p> <p>(12) 忠生小学校、本町田小学校「サマースクール(太陽観察)」の実施協力: 8月24日、会場: 理化学館 天体観測所、講師: LA学群数理系教員</p> <p>(13) 出前授業「ダンス教室」の実施: 8月25日、会場: 町田市立山崎小学校、講師: ソングリーディング部CREAM(参加生徒数40人)</p> <p>【2011年 9月】</p> <p>(14) 出前授業「演劇教室・演技実習」の実施: 9月8日、会場: 鶴川第一小学校、5、6年生対象、講師: 今井先生(総文)</p> <p>(15) 出前授業「スポーツ教室: チアリーディング教室」の実施: 9月17日、会場: 町田市立小山小学校、低学年対象、講師: チアリーディング部</p> <p>(16) 「桜美林銀河落語会」の開催: 9月24日、会場: PFCプルヌスホール、出演者: 古今亭菊千代(OG)、主催: BM学群、協力: にこにこ星ふちのべ協同組合</p> <p>(17) 出前授業「リレー教室」の実施: 9月30日、会場: 町田市立小山田小学校、運動会のリレー選手対象、講師: 陸上競技部</p> <p>【2011年10月】</p> <p>(18) 「中国を知る講座」の開催: 10月1日、会場: PFC、講師: 植田渥雄名誉教授、主催: 相模原市日中交流協会、後援: 本学、本学孔子学院</p> <p>(19) 「相模原スポーツフェスタ」ダブルダッチサークルが出演: 10月10日、会場: 麻溝台陸上競技場、主催: 相模原市、相模原市教育委員会、相模原青年会議所</p> <p>(20) 「さがみはらエコフェスタ」パネラー</p>	

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
経営企画室 (地域連携推進室)			<p>として本学LA学群生が登壇：10月23日、会場：相模原市環境情報センター、主催：相模原市環境情報センター</p> <p>(21)「相模大野かぼちゃまつり」子どもサポートボランティアとして学生が参加：10月23日、会場：相模大野中央公園、主催：相模大野かぼちゃまつり実行委員会、後援：相模原市、協力：本学</p> <p>(22) 大学祭にて地域連携を実施：10月29日、①地域ブース出店 相模原市→淵野辺駅北口商店街、町田市→町田市観光コンベンション協会、(まちだB級グルメ対決を実施、J:COM取材あり)、②警視庁町田警察署交通事故防止キャンペーンを実施(メイングラウンド)(スタントマンによるアトラクションあり)、③町田市保健所HIV予防キャンペーンを実施(一粒館前)、④「境川クリーンアップ作戦シンポジウム」開催 会場：崇貞館</p> <p>(23) 町田法人会忠生支部チャリティーイベントにチアリーディング部が出演：10月30日、会場：町田市立山崎小学校、主催：町田法人会</p> <p>【2011年11月】</p> <p>(24) 町田市公民館講座「子ども科学教室：地球と宇宙のふじぎ」を実施：11月12日、会場：理化学館、講師：LA学群教員のオムニバス(全4回)、主催：町田市(町田市中央公民館)、後援：町田市教育委員会、協力：本学</p> <p>(25)「2011 きらり☆まちだ祭」学生運営スタッフとして学生25人参加：11月13日、会場：町田駅周辺、主催：町田市、町田商工会議所、町田市農業協同組合</p> <p>(26) 相模原市中央区光が丘地区「わが町フェスタ」運営スタッフおよび出店、出演：11月23日、本学から4団体が出演、出店、会場：相模原市立淵野辺公園、主催：光が丘自治会連合会、光が丘地区まちづくりセンター、①硬式野球部(少年野球教室、運営スタッフ)、②チアリーディング部(ステージパフォーマンス、運営スタッフ)、③草の根国際理解教育支援プロジェクト(出店)、④阿久根ゼミ(出店)</p> <p>(27)「異文化体験企画：桜美林大学 十二単衣着付け体験(学内限定)」：11月26日、会場：明々館、主催：町田市観光コンベンション協会、本学</p> <p>(28)「神奈川県森林インストラクターの会」シンポジウムを開催：11月27日、会</p>	

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
経営企画室 (地域連携推進室)			<p>場： PFC、主催：神奈川県森林インストラクターの会、協力：本学</p> <p>【2011年12月】</p> <p>(29)「デートDV防止啓発講演会」を開催：12月1日、会場：サレンバーガー館、主催：町田市男女平等推進センター、協力：本学</p> <p>(30)「大野北公民館イルミネーション点灯式」にてクワイヤーが出演：12月3日、会場：大野北公民館、主催：大野北公民館</p> <p>(31)さがまちコンソーシアム大学講座「ビジネスマナー講座（八千代銀行編）」：12月8日、会場：PFC、主催：さがまちコンソーシアム、協力：八千代銀行、本学</p> <p>(32)「2011イルミネーションバザール」：12月18日、会場：淵野辺駅北口オーロラデッキ下、主催：にこにこ星ふちのべ協同組合、協力：本学、BM学群山口ゼミ生、日坂ゼミ生他が運営スタッフおよび出店</p> <p>【2012年1月】</p> <p>(33) 町田市成人式「二十祭まちだ」の企画運営スタッフとして学生が参加：1月8日、会場：町田市立総合体育館、主催：「二十祭まちだ」実行委員会、共催：町田市文化振興課、BM学群山口ゼミ生他が「二十祭まちだ」実行委員会の主体となり運営。CREAMもゲストでパフォーマンスを披露</p> <p>(34) 相模原警察署主催「110番の日キャンペーン」にCREAMが出演：1月10日、会場：JR淵野辺駅オーロラデッキ、主催：相模原警察署</p> <p>(35)「二十祭 Machida collection」の企画・運営を学生が実施：1月15日、会場：ぽっぽ町田、主催：町田市成人式実行委員会、「二十祭まちだ」実行委員会、町田市を活性化させるためにファッションショーを行い、商店街の活性化とともに町田の古着ファッションの振興を目的とした本学と玉川大学の学生によるコラボレーション企画</p> <p>(36) 出前授業「韓国の文化（食文化）を知る」を実施（チヂミ作り）：1月21日、会場：町田市立相原小学校、6年生（3クラス）対象、講師：延先生、韓国留学生</p> <p>(37)「第13回相模原ダンススポーツフェスティバル」にCREAMが特別ゲスト出演：1月28日、会場：相模原市総合体育館、主催：相模原市ダンススポーツ連盟、後援：</p>	

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
経営企画室 (地域連携推進室)			<p>相模原市、CREAMが特別ゲスト出演 (38)「相模原市中央区ビジョン報告会」ポスターセッション：1月28日、会場：相模原市産業センター、本学と相模原市中央区の協働事業活動状況報告</p> <p>【2012年2月】</p> <p>(39)「はやぶさグッズ・グルメ」メディア発表会：2月3日、会場：PFC、主催：相模原市、JAXA、にこにこ星ふちのべ協同組合、協力：本学</p> <p>(40) 出前授業「スポーツ教室：チアリーディング教室」の実施：2月4日、会場：町田市立小山小学校、高学年対象、講師：チアリーディング部</p> <p>(41) 相模原中央支援学校「第1回 音楽交流会」(総文学群：小早川ゼミ、松岡ゼミ)：2月7日、会場：徳望館</p> <p>(42) 相模原養護学校「第3回 音楽交流会」(総文学群：小林ゼミ)：2月9日、会場：徳望館</p> <p>(43)「町田ショートフィルム・フェスティバル」の実行委員で総文学群学生が参加：2月10日～11日、会場：町田市民フォーラム他、主催：町田ショートフィルム・フェスティバル実行委員会</p> <p>(44) 出前授業「放課後：読み聞かせ教室」の実施(健福学群の学生2人)：2月15日、1～3年生対象、会場：町田市立高ヶ坂小学校、講師：本学健福学群保育専修3年生2人、玉川大学教育環境研究会サークルの学生4人</p> <p>(45) 相模原市の友好都市「無錫市」の行政交流団との情報交歓会を実施：2月24日、会場：崇貞館、主催：相模原市、協力：本学</p> <p>(46)「淵野辺駅周辺活性化プロジェクト」シンポジウムを実施：2月29日、会場：PFC、主催：全国商店街支援センター、共催：にこにこ星ふちのべ協同組合、本学、後援：相模原市、相模原商工会議所、社団法人相模原市商店連合会</p> <p>【2012年3月】</p> <p>(47)「中国展」の開催：3月3日、会場：PFC、主催：相模原市日中交流協会、後援：相模原市、本学、本学孔子学院</p> <p>(48) 相模原市「アトラボはしもと」基本協定締結式：3月9日、4大学と相模原市が連携し、アートによるまちづくりを推進することを目的とする協定(相模原市役所にて)(女子美術大学、多摩美術大学、東京造形大学、本学)</p>	

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
(地域経営連携推進室)			(49) J 2昇格の「FC町田ゼルビア」とオフィシャルスポンサー契約を締結：玉川大学と本学との共同スポンサー契約。 <共同スポンサーの名称> COUMZ (Consortium of Universities in MACHIDA ZELVIA) ロゴが、ユニホーム左袖に入る。	
パフォーミングアーツ・インスティテュート	市民参加企画：(財) 相模原市民文化財団との共催。プルヌスホールにおいて市民・学生・プロのアーティストが共演する舞台「群読音楽劇 銀河鉄道の夜」	完了	<p>【市民参加企画】：</p> <p>①群読音楽劇「銀河鉄道の夜2011」 大学の知財、人材、設備を用いて地域文化を活性化することを目的に2007年から継続している夏の恒例企画。 市民・学生・プロのアーティストが共演する舞台上、今年度は「東日本大震災」への思いを作品に盛り込み、NHK首都圏番組「こんにちはいっと6けん」にもその視点から8分間のドキュメンタリーとして取り上げられた。 脚本・演出：能祖将夫 音楽監督：佐山雅弘 稽古期間：8月20日～25日 本番期間：8月26日～29日 ステージ数：5ステージ 会場：PFCプルヌスホール オーディション応募者数 205人（市民63人、学生142人） 出演者数：27人（市民12人、学生11人、プロ4人） 入場者数：922人 主催：本学 共催：(公財) 相模原市民文化財団 後援：相模原市、町田市、銀河連邦サガミハラ共和国、にこにこ星ふちの協同組合 助成：芸術文化振興基金</p> <p>②付帯企画 「銀河鉄道の夜イメージ画コンクール」を実施、作品応募数65点。8月6日～29日、PFCエントランスホールにて展示。 新規企画として市民に向けた「詩の朗読ワークショップ」を実施（5月28日、PFC）、定員20人のところ応募数38人。</p>	群読音楽劇「銀河鉄道の夜2012」は市民出演者と観客共により多くの層の方々に応募、観劇してもらおうことをめざす。
	アウトリーチ：町田、相模原地区の小学校、養護学校、老人ホーム、身体障害者施設等にプロのクラシック音楽家やダンサーを派遣。老人ホームでは高齢者向けに開発した学生主体のアウトリーチプログラム「合唱寸劇水戸黄門」を実施。	完了	<p>【アウトリーチ】</p> <p>①アーティスト派遣 町田・相模原近隣地区の小学校と身体障害者施設に第一線で活躍するプロのクラシック音楽家やコンテンポラリーダンサーを派遣。今年度は9人のアーティストが8カ所14コマのアウトリーチを実施。 実施期間：10月～1月 アーティスト：中川賢一（ピアノ）、ピアノ</p>	近隣の小学校、施設からの実施希望も増えているので、できる限り要望に応えられるよう努める。「合唱寸劇水戸黄門」はツアーも継続する。

担当 部門	実施計画	取り組 み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
パ フ ォ ー ミ ン グ ア ー ツ ・ イ ン ス テ ィ テ ュ ー ト			<p>デュオDuetwo (ピアノ連弾)、田村緑 (ピアノ)、大森智子 (ソプラノ)、白石光隆 (ピアノ)、上村なおか・笠井瑞丈 (ダンス)、森下真樹 (ダンス)</p> <p>実施会場：柏木小学校 (6年生2クラス29人、30人)、南第二小学校 (支援学級11人)、本町田小学校 (みどり学級25人)、鶴の台小学校 (4年生3クラス40人、38人、39人)、藤の台小学校 (ふじの学級13人)、身体障害者施設さがみ緑風園 (60人)、藤野北小学校 (1～4年生34人、5・6年生22人)、南つくし野小学校 (支援学級30人)</p> <p>②「合唱寸劇水戸黄門」 学生主体による高齢者向け演劇アウトリーチ「合唱寸劇水戸黄門」を老人ホームと養護学校で実施。今年初めてのツアーを行い茨城県と和歌山県の公民館やホールでも実施、新聞にも多数掲載された (教育学術新聞、読売新聞、常陽新聞、茨城新聞、紀伊民報)。実施期間：9月～2月、計13カ所13回。参加学生数30人。 実施会場：[近隣地域] 神奈川県立相模原養護学校 (相模原市)、奈良地域ケアプラザ (横浜市)、ケアセンター成瀬 (町田市)、シルバータウン相模原特別養護老人ホーム (相模原市)、[茨城県小美玉市] 玉川地区学習等供用施設、小美玉市四季文化館、晴風園の里、[和歌山県上富田町] 生馬公民館、岩田公民館、大谷高齢者憩いの家、上富田文化会館、岡創作館、市ノ瀬公民館</p> <p>③エントランスコンサート 地域の方々に向けたエントランスコンサートを2回実施。歌×ピアノ連弾×朗読×ダンス「サンタクロースの忘れもの」(大森智子、Duetwo、大園康司、藤井友美、能祖将夫/12月27日)、ピアノコンサート「どこまでもレボリューション」(白石光隆/1月6日)。合計入場者数280人。</p> <p>④「社会と共生するアーティスト育成プログラム」 アウトリーチができるアーティストの育成をめざした講義と実践のプログラム。市民と学生合わせて8人が参加。実施は朗読と音楽プログラム (2月28日、大戸小学校) と高齢者向けダンスワークショップ (3月12日、ブルヌスホール)</p>	

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
パフォーミング・インスティテュート	ワークショップ：新進気鋭のアーティストを招いての小学生を対象の「劇場であそぼう」をプルヌスホールで実施。	完了	<p>【ワークショップ】</p> <p>コンテンポラリーダンサーの森下真樹を講師に迎え小学生対象の「劇場であそぼう vol. 5 ～夏休みだよっ！カラダとあそぼう～」を実施。最終日には発表会を行った。小学4年生～6年生の21人が参加。</p> <p>開催期間：8月4日～8月8日</p> <p>会場：PFCプルヌスホール</p> <p>発表会入場者数：56人</p> <p>後援：相模原市教育委員会、町田市教育委員会</p>	より多くの小学生から応募をいただけるように努める。
	その他：共催事業「高校演劇春のフェスティバル」「高校演劇多摩南地区大会」弥栄高校芸術科「アートライブ」。舞台芸術系の課目を持つ高校（相模原青陵高校、弥栄高校）で指導、演劇部の嘱託顧問として協力。	完了	<p>【その他】</p> <p>(1) 共催事業としてプルヌスホールで弥栄高校芸術科「アートライブ」（8月7日）、「高校演劇多摩南地区大会」（10月1日～2日）、「高校演劇ワークショップ」（2月11日～12日）、「高校演劇春のフェスティバル」（3月24日～25日）開催。</p> <p>(2) 舞台芸術系科目を持つ高校（相模原青陵高校、弥栄高校）で研究員、研究補助員による指導協力。</p> <p>(3) 演劇系学科を置く大学の教員による「大学間シンポジウム／大学の中の演劇～演劇教育は何をめざすか～」を実施（12月11日、PFCプルヌスホール）。 パネラー：安宅りさ子（桐朋学園芸術短期大学）、加納豊美（多摩美術大学）、藤崎周平（日本大学）、松本修（近畿大学）、高瀬久男（桜美林大学／進行）。 入場者数80人。</p> <p>(4) 東日本大震災復興支援公演「ケンジのイノリ～3・11ニモマケズ～」を実施（3月11日、PFCプルヌスホール）。</p>	2011年度のプログラムの継続と発展していけるよう努める。
マネジメント学群	前年度に引き続きBM学群のリソースを活かしながら地元商店街と協力して商店街および地域の活性化方策を探っていく	完了	<ul style="list-style-type: none"> ・淵野辺駅周辺活性化プロジェクトの一環として、『キラキラふちのベストリート』（創刊号）を発行し、商店街イベントでも配布。 ・にこにこ星ふちのべ協同組合の協力を得てBM学群主催の「桜美林銀河落語会」をPFCで開催。 ・「淵野辺駅周辺活性化プロジェクト」の一環として、シンポジウム「桜美林大学と地域連携した社会事業」をにこにこ星ふちのべ協同組合とPFCで共催。 	
大学院	<経営学研究科> 公開講座への参加	完了	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、大学院による公開講座に積極的に参加した。 	引き続き取り組む。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
大学院	<心理学研究科> 各研究科、専攻による公開講座の積極的実施および大学院主催の公開講座の定期的な実施を検討する。	完了	研究科としては、臨床心理センターの事業は2011年度も継続実施した。具体的には以下の2つの内容である。 ①学外者のクライアントを対象とするにカウンセリング ②地域住民を対象に公開講座を実施（年2回）。うち1回は発達障害をめぐる内容で、学内外から多数の参加者を得て盛況であった。	

2. 公開講座の充実

② 生涯学習センター（現エクステンションセンター）のプログラムによる受講生の倍増。

主管部局（担当者）：エクステンションセンター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他																			
エクステンションセンター	オープンカレッジ（町田・PFC） ・継続受講生がほとんどを占める中、新規受講生を獲得するため、従来の冊子型のパンフレットではなく、チラシ型に変更し、周辺地域への新聞折込により広報活動を促進する。 ・受講生の少ない講座の見直しを行い、一講座当たりの受講生数の増加を図る。	完了	既存の受講生へのアンケートを実施し、受講の動機、講座選択の理由、居住地分布など様々な属性を調査した結果に基づき、講座案内の媒体を従来の冊子型のパンフレットからチラシ型に変更したうえで、該当地域への新聞折込にて広報活動を行った。 これにより、新規受講生の受講動機の中で新聞折込の占める割合が30代～40代は約30%、50代は約40%、60代以上は約50%といずれも一位となる結果を得た。 なお、全受講生の中での受講動機においても、折込チラシを利用したDMが各年代とも上位を占めており、受講生獲得に一定の効果がみられた。 また、一講座当たりの受講生数については、上記の広報活動および講座の見直しを行った結果、下表のとおり増加させることができた。 <一講座当たりの受講生数（人） 2011/2/10現在>	引き続き受講生へのアンケート調査を行い、より一層の折込チラシでの広報活動の効率化を図るとともに、講座運営に係る諸経費の節減に努め、エクステンションセンターとしての収益講座の改善をめざす。																			
			<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">2010年度</th> <th colspan="2">2011年度</th> </tr> <tr> <th>春期</th> <th>秋期</th> <th>春期</th> <th>秋期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>語学講座</td> <td>7.36</td> <td>7.29</td> <td>9.00</td> <td>9.40</td> </tr> <tr> <td>文化・教養講座</td> <td>7.81</td> <td>7.63</td> <td>9.24</td> <td>10.25</td> </tr> </tbody> </table>		2010年度		2011年度		春期	秋期	春期	秋期	語学講座	7.36	7.29	9.00	9.40	文化・教養講座	7.81	7.63	9.24	10.25	
	2010年度		2011年度																				
	春期	秋期	春期	秋期																			
語学講座	7.36	7.29	9.00	9.40																			
文化・教養講座	7.81	7.63	9.24	10.25																			

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
エクステンションセンター	桜美林大学アカデミー（四谷） ※2011年度予算編成における事業計画書 ・開講率80%の達成 ・支出経費の削減	一部完了	①2011年度後期 39講座企画 → 31講座開講 開講率 79.5% 前期 39講座企画 → 21講座開講 開講率 53.8% 2010年度後期 39 講座企画 → 27講座開講 開講率 69.2% 前期 71講座企画 → 40講座開講 開講率 56.3% 前期は震災の影響を受けたが、後期はほぼ目標を達成した。「食育講座」や「健康・心理講座」など、働く女性が興味を持ちやすい講座を充実させたことで、リピーター率の増加につながった。 リピーター率 ⇒ 2011年後期 72% 2011年後期 61% 2010年前期 68% 2010年後期 49% ②2月末現在、経費支出は目標達成の見込み。 要因としては、 (ア) 講師謝金の引き下げかつ講座数を減らしたことによる講師謝金の減少 (イ) 講座案内パンフレットの仕様変更（冊子からA3二つ折りのチラシ型に変更） (ウ) 派遣職員を2人→1人に (エ) Webサイト作成を外部委託から学内に（2011年後期から） (オ) 広告媒体の変更・絞込み (カ) 卒業生へのDMを廃止 などが挙げられる。	・四谷という地の利を活かすプログラム内容への積極的な改革を継続し、新規会員の獲得をめざすため、世田谷、目黒（東急線沿線、南北線）在住者へのダイレクト発信を行う。 ・1講座あたり受講生2人の増加を目標とする。
	多摩エクステンションプログラム		講座数、受講生数の実績は以下のとおり。 2011年1月末現在 ⇒ 55講座 879人 2012年2月末現在 ⇒ 56講座 933人	サンピア時代から引き継がれている、地域住民から親しまれる講座展開の特徴をより一層生かし、講座数、受講生数の増加を図る。当面は、60講座1,000人をめざす。
大学院	<老年学研究科> 老年学公開講座を四谷キャンパスで年2回開いている。実施時には、科目等履修・聴講生の申し込みを配布している。DMを発送する際にリーフレットを同封している。	完了	100%達成した。加えて、公開講座において、大学院進学説明会も開催した。	次年度も継続した取り組みをする。

- ③ 大学、大学院の講義科目を市民に開かれたものとし、聴講生・科目履修生を積極的に受け入れる。

主管部局（担当者）：教育・研究支援センター

関連部局：エクステンションセンター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
教育研究支援センター	今後、積極的に受け入れるための検討を行う。 現在は、本学Webサイトのみでの告知であるが、公開講座用のパンフレットにも聴講生・科目等履修生について掲載するなど、募集広報活動も検討したい。	一部完了	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプランの前半「大学、大学院の講義科目を市民に開かれたものとし」については、既に制度上は「開かれ」てあるが、後半「聴講生・科目等履修生を積極的に受け入れる」については、数値上の成果には至っていない。 ・聴講生・科目等履修生の学士課程・大学院における総数は、2010年度春：85人、2010年度秋：79人、2011年度春：76人、2011年度秋：66人である。 ・Webサイトの充実など広報活動の強化にも着手したが、公開講座でのリーフレット作成・配布などは未着手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴講生、科目等履修生の増加策について、広く意見・提案を求め、詳細な検討を行う。 ・募集、広報活動の方策について検討し、有効な方法を実施していく。
大学院	<経営学研究科> 聴講生・科目履修生、研究生の受け入れ	完了	・研究科案内の充実を図りながら、聴講生・科目履修生、研究生を積極的に受け入れる。	引き続き取り組む。
	<言語教育研究科> 大学院の科目を市民に開かれたものとし、科目等履修や聴講を積極的に受け入れる。	完了	他大学の学生や一般市民の科目等履修や聴講は積極的に受け入れている。正規学生の少ない英語教育専攻は受講生の中でこの比率が高い科目もある。	今後は、公開講座の開催も含めて、さらに、広く市民や一般の人に開放する方策も考える。
	<心理学研究科> 学生の履修状況、授業評価に基づいたカリキュラムの構築。	一部完了	夜間にも授業を開講していることについては、特に社会人学生に好評である。ただし、非常勤講師による集中講義の日程の決定が遅れがちとなったり、変更が行われたりする例が複数見られた。	

3. 学生生徒のボランティア活動支援

- ④ 学生・生徒が、地域の環境保護・福祉活動に参加し、実際に地域の役に立つ行動をとれるようにする（ための支援の仕組みを構築する）。

主管部局（担当者）：幼稚園、中学校・高等学校、キリスト教センター

関連部局：経営企画室（地域連携）

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
幼稚園	6月：近隣の社会福祉施設・警察署・消防署への花配り（年長） 11月：近隣の社会福祉施設への野菜・果物配り（年長） 近隣の老人福祉施設訪問・交流（年中） 年間：近隣公立中学校の職場体験の生徒受入 本学園中高大学生のボランティア受入	完了	左記計画は全て実施。 他7月：「境川クリーンアップ作戦」（年長） 絵画作品を出品 11月：震災復興支援の取り組みの一環で、「3.11への想い」に版画を出品（年長）	
中学校・高等学校	(1) 生徒のボランティア活動の支援。生徒の活動を自活させる。 1) 自主性の育成 ①体育祭・文化祭他を生徒主導型にする仕組みを構築 ②ボランティア活動に対する仕組みの構築 2) 環境教育、福祉活動の実施 ①環境保護活動を行う仕組みの構築 ②福祉活動を行う仕組みの構築	未着手	全て未着手。	2012年度中期目標に掲げている。
経営企画室（地域連携推進室）	社会貢献の一環として「境川クリーンアップ作戦」に全学挙げて参加。	完了	「境川クリーンアップ作戦」に参加（相模原市・町田市、東京都の協力）：7月31日、会場：境川流域7会場（小山～上鶴間）901人の学生・教職員が参加、主催：町田・相模原シニアJC	2012年度は9会場に増えることから、昨年度以上の参加者を募ることとしている。
総合文化学群	<音楽専修> 2010年度プログラム継続・発展。音楽のアウトリーチ活動。高校、施設、病院、地域公民館などでのコンサートや音楽交流会、教会での奉唱。本学キリスト教音楽研究所や生涯学習センターとの連携による公開講座、市民講座開催。	完了	2011年度はボランティアとしての活動が多く行われた。 学生の演奏による相模原養護学校、相模原中央支援学校との音楽交流会、白峰福祉会（かたつむりの家）での音楽会。 キリスト教研究所主催のオラトリオ「天地創造」（合唱は地域の方々が参加）、公開講座「人と教会と音楽と」、オルガンコンサートを開催。 生涯学習センター主催のアフタヌーンコンサート年間10回。 今年度よりJAXAとのコラボレーション「宇宙と音楽」が実現し、音をより広く、深く表現する機会になった。	ボランティアに関わる学生数を増やし、社会貢献とは何なのか考える機会をもっと多く与えたい。養護学校、支援学校が地域の大学に何を求めているのかを調査する必要がある。

Cornerstone 4 : 地域貢献の強化

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
			取り組みの結果、養護学校、支援学校の先生方から「桜美林生は障害を持つ生徒との関わり方が上手」とのコメントがあり、教職課程の介護等実習にも役立っている。オラトリオにも地域の参加者が多く、本学の音楽が少しずつ根を下ろしてきている。	
総合文化学群	<p><造形デザイン専修> 2010年度プログラム継続・発展。 町田市民病院アートワークへの学生作品提供。町田市立国際版画美術館「ゆうゆう版画まつり」参加。相模原市主催「フォトシティさがみはら」写真展参加。</p>	完了	<p>2011年度の対外的活動、地域貢献は下記の通り。 町田市民病院アートワークへの学生作品提供。 町田市立国際版画美術館「ゆうゆう版画まつり」参加。 町田市立国際版画美術館「メディアアート展」参加。 伊豆高原アートフェスティバル参加 Numbers写真展（アメリカショッピングセンター） 昨年度と同様の活動を実施した。</p>	
	<p><映画専修> 2010年度プログラム継続・発展。 「さがまちコンソーシアム」の県・国民年金基金テレビCF制作活動への参加。相模原市主催「フォトシティさがみはら」映像制作への参加。</p>	完了	J:COM「さがまちコンソーシアム」番組制作への参加。	
マネジメント学群	前年度に引き続きBM学群生を町田および淵野辺（および相模原市）の行事に積極的に参加させ地域との協力関係を築く。	完了	<p>山口ゼミの学生が町田市等のイベントに参加。 鈴木ゼミの学生が東北地方の被災地の観光復活のイベントおよび三重県の観光活性化のイベント（三重大学地域戦略センター、三重県等と共同）に参加。</p>	

Cornerstone 5 : 学生・生徒支援体制の充実

1. 健康管理体制の充実

① 医師とスタッフを配置した保健室を設置する。

主管部局 (担当者) : 学生センター

関連部局 : 総務・人事センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター	<p><学生生活支援課> 学生3,000~4,000人あたり2人の保健衛生支援室スタッフが必要と考えられることから、看護師(パート職員)を採用し、支援体制を整える。</p>	完了	<p>今年度は、2014年度までの保健衛生支援室のスタッフ強化に向けた看護師の人的整備の取り組みを行った。 単年度目標としての取り組み結果は完了であり、2014年度までに行うべき保健衛生支援室の医師配置については、今後の課題であり、目標達成到達度合いとしては1/2と考える。</p> <p>1. 人的確保 ・看護師の有資格者職員(パート1人)を4月より雇用したことで、安定した保健衛生支援室の運営に必要な看護師4人体制が整った。 ※4人体制が適正な数値である根拠、全国大学の平均的な看護師の配置数が、3千人~4千人あたり2人という状況に基づき整備を進めたもの。</p>	人的整備が完了したことから、2012年度以降は学生等の健康管理の体制を強化するための取り組みを行う。

② 学生相談室の機能を強化する。

主管部局 (担当者) : 中学校・高等学校、学生センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター	<p><学生生活支援課> 1. 人員確保 全国的には、学生3,000人あたり1人の常勤カウンセラー配置が目安となっていることから、専任・非専任に関わらず常勤カウンセラー3人体制の確保維持 2. 設備向上 面接室の機密性が充分でないことから、2011年に改装等手続きを進める。さらに、常勤カウンセラー数の増加にともなう、面接室の追加(1部屋)の依頼および予算計上の準備を進める。</p>	完了	<p>今年度は、2014年度までの学生相談室機能強化に向けた人的および設備的な整備の取り組みを行った。 単年度目標としての取り組み結果は完了であり、2014年度までに行うべき学生相談室と教職員連携によるセイフティーネットの構築や精神疾患を持つ学生向け支援プログラムの拡充にむけた目標達成到達度合いとしては1/3と考える。</p> <p>1. 人的確保(目標達成済) ・3人体制の確保維持は完了</p> <p>2. 設備向上(目標達成済) ・面接室の機密性向上は構造上の問題から対応が非常に難しいことから、取り扱う面談の案件に基づき、使用する部屋を替えることで柔軟な対応を行う方向に</p>	人的および設備的な整備の目処がある程度進んだことから、学生の精神疾患に関する教職員の理解を深めるFD・SD研修を行い、学生相談室との連携体制を構築や不登校・発達障害などの学生への支援プログラムの強化を図る。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター			切り替えた。 ・面接室追加については、構造上、非常に難しいことから、新たに他部署の面談スペースを確保し、有効活用することで柔軟な対応に切り替えた。	

2. 奨学金制度の整備

③ 奨学金制度の整備：対象者の適切な選定と、給付、貸与の選択。

主管部局（担当者）：学生センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター	<p><学生生活支援課> 2011年度より新たに導入される奨学金制度が運用されることから、その状況を見ながら、制度の充実を図る。 また、他大学の対留学生奨学金制度などを研究、取りまとめを行い、2012年度以降、制度の充実と拡大に向けた検討案がだせるようにする。</p>	完了	<p>今年度は、2014年度までの奨学金制度整備に向けた検討材料の收拾および検討のための枠組みづくりを行った。 単年度目標としての取り組み結果は完了であり、2014年度までに行うべき奨学金制度整備、新たな奨学金制度の構築における目標達成到達度合いとしては1/3と考える。</p> <p>1. 奨学金制度に関する検討 ・2010年度までの奨学金制度および2011年度よりスタートした新奨学金制度の受給状況の振り返りによる制度の課題案件の洗い出し ・全学学生委員会の組織改組（2012年度より）による経済的支援の課題を検討する枠組みづくり</p> <p>2. 2012年度以降の奨学金制度拡充検討 ・企業奨学金（仮称）に関する素案作成 ・他大学の事例研究</p>	<p>2011年度は奨学金制度の拡充に向けた検討材料探しや検討を行う仕組みづくりをすることを主としていた。 2012年度は検討された案件の具体化に向けて協議し、2013年度以降に奨学金制度改革や新制度を導入予定。</p>
高等学校・中学校	<p>(1) 奨学金制度の整備 ①対象者の適切な選定で本校に相応しい制度に整備する</p>	一部完了	<p>学業優秀者への奨学金から、家計状況による就学困難者への援助に重きを置く内規の整備が必要と考えている。</p>	2012年度中期目標に掲げている。

④ 奨学金基金の充実（学納金に頼らない奨学金の原資）。→ Cornerstone10-3-⑦に統合

3. スポーツ支援体制の構築

- ⑤ 競技スポーツ強化のための専任指導者の確保とスポーツ活動の支援体制の整備（メジャーなスポーツについて全国レベルまで上げる支援）。

主管部局（担当者）：学生センター

関連部局：入試広報センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
学生センター	<p><学生生活支援課> 本学競技スポーツ団体の実情調査、強化指定団体および枠組みの再精査、他大学のスポーツ支援に関する調査を行い、全体の方向性と2014年までの予算組み、人員体制作りを行う。</p>	完了	<p>今年度は、2014年度までの競技スポーツ強化に向けた検討材料の收拾および検討のための枠組みづくりを行った。 単年度目標としての取り組み結果は完了であり、2014年度までに行うべき指導者確保、支援体制整備などにおける目標達成到達度合いとしては1/3と考える。</p> <p>1. OACU加盟団体の実情調査（目標達成済） ・スポーツ系25団体の部長・副部長・次期部長に対して、各団体の活動状況、実績、運営における課題などについてヒアリング実施 ※文化系15団体も同様のヒアリング実施 ・強化指定団体については、スポーツ体育局（仮称）が主体となり、顧問、コーチ等に対してヒアリング実施</p> <p>2. 他大学のスポーツ支援の調査（目標達成済） ・国士舘大学、山梨学院大学などのスポーツ強化に取り組む大学へのヒアリング実施</p>	<p>2011年度は奨学金制度の拡充に向けた検討材料探しや検討を行う仕組みづくりを主としていた。 2012年度は検討された案件の具体化に向けて協議し、 2013年度以降に奨学金制度改革や新制度の導入予定。</p>

4. キャリア開発支援の強化

- ⑥ 学園が育てる人材に相応しい就職機会、進学機会の開発。

主管部局（担当者）：キャリア開発センター

関連部局：学生センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キャリア開発センター	(1) 学内合同企業説明会の開催	完了	<p>学内合同企業説明会の開催について 4年生を対象とした説明会 5月度（企業30社／学生参加数362人） 7月度（企業20社／学生参加数65人） 11月度（企業31社／学生参加数95人） また、3年生を対象とした説明会としては、2月度において3日間開催。 参加企業数は、2月7日 86社、2月8日 83社、2月9日 86社で合計255社、学生参加数は、2月7日 749人、2月8日 650人、</p>	<p>・就職内定率のさらなるアップ。 ・各種イベントや支援プログラム参加者数のさらなる底上げ。 ・大学院生へのフォロー不足のため、そのフォロー強化。</p>

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キャリア開発センター			<p>2月9日 628人で、延べ合計2,027人となった。</p> <p>何が、どのように変わったのか 5・7・11月度の企業説明会は4年生・大学院2年生を対象、2月度については、主に3年生・大学院1年生を対象として行なった。 就職環境が未だ厳しいなか、特に2月度の企業説明会時においては卒業間近の4年生や事前準備を意識した大学2年生の参加もみられ、各々の学年において有効活用される現象が生じてきた。</p>	
	(2) 就職支援イベント(キャリアフェスタ)の開催	完了	<p>就職支援イベント(キャリアフェスタ)の開催について メインイベントとしては、年4回行われる「キャリアフェスタⅠ～Ⅳ」。 以下日程(土曜日)で終日行った。(以下参加者合計:1,961人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアフェスタⅠ(7月9日開催、参加者数:346人) ・キャリアフェスタⅡ(10月8日開催、参加者数:562人) ・キャリアフェスタⅢ(11月12日開催、参加者数:579人) ・キャリアフェスタⅣ(12月17日開催、参加者数:474人) <p>キャリアフェスタの内容は、各時期に必要なイベントを複合させたもので、以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内定した学生によるパネルディスカッション 2. OBOGによるパネルディスカッション 3. 女子学生のための就職セミナー 4. マナーおよびメイク・身だしなみセミナー 5. キャリアアドバイザーによる <ul style="list-style-type: none"> ・「自己分析セミナー」 ・「履歴書作成セミナー」 ・「職種・業界研究セミナー」 ・「面接およびグループディスカッション対策セミナー」 6. 内定を獲得した4年生に「桜サポーター」として協力してもらい、3年生との就職活動に関する相談会の開催 7. 外国人留学生向けセミナー <p>何が、どのように変わったのか 特に大きな変化はない。キャリア開発センターのメインイベントとして定着した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率のさらなるアップ。 ・各種イベントや支援プログラム参加者数のさらなる底上げ。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キャリア開発センター	(3) インターンシップ等、就業研修機会の提供	完了	<p>インターンシップ等、就業研修機会の提供について 2011年度のキャリア開発センター扱いのインターンシップの参加者数と派遣先数は以下のとおり。 ・参加者数：139人／前年度：148人 ・派遣先数：71社／前年度：67社</p> <p>全般支援としてのキャリアアドバイザー制度について 現時点で嘱託職員として直接雇用されているキャリアアドバイザーが16人在籍中。3・4年生に対する担任制（約250人／1人を担当）による就職全般の相談支援を行った。 なお、相談では、本学学生の特質を踏まえ、常に学生に寄り添うスタンスで、1回につき40分の予約制を取り、内定率のアップを図ってきた。 ・2009年度（制度1年目）／就職内定率83.1% ・2010年度（制度2年目）／就職内定率90.6% ・2011年度（制度3年目）／就職内定率（未定）</p> <p>何が、どのように変わったのか 2011年度においては、前年度14人の受け入れを行っていた企業がインターンシップをアルバイトに切り替えたため、その分は減少したものの、Webサイトを利用した別途企業への参加が増えたため、結果的に参加者数には大きな変動はなかった。なお、派遣先数は、4社増えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率のさらなるアップ。 ・インターンシップ参加者数のさらなる底上げ。 ・大学院生へのフォロー不足のため、そのフォロー強化。
	(4) 各種、就職およびキャリアプランニング支援セミナー開催	完了	<p>各種、就職およびキャリアプランニング支援セミナー開催について 本件における概略や動員数は、2月末時点で把握した数値において、12,038人であった。 なお、当センターでは、その他エクステンションセンターとも連携して資格講座やマスコミ等の就職対策講座、公務員試験対策講座などへの参加も斡旋・動員した。</p> <p>何が、どのように変わったのか これまでの学生支援は、主に3年生秋学期～4年生に集中していたため、低学年の学生はキャリア開発センターの認知度が低かったが、上記対応の結果、1年生～3年生（春学期）にかけての、一つの繋がりを持った形での支援策が学生に認知されつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントや支援プログラム参加者数のさらなる底上げ。 ・大学院生へのフォロー不足のため、そのフォロー強化。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キャリア開発センター			つあり、授業や学生生活および学内全般における各種プログラムへの参加の大切さと、将来設計の必要性など、低学年の時点で気づける学生を増やすことができた。	
	(5) 新キャリアプランニングセミナーや研修プログラム等の企画、計画、運営	完了	<p>新キャリアプランニングセミナーや研修プログラム等の企画、計画、運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>3年生向け</u>には、「アドバンテージOBIRIN 実践研修」と称して、コーチングに長けたプロのキャリアコンサルタントによる「自己発見面談研修」でモチベーションを上げさせたのち、希望者にはグループワーク、プレゼンテーション研修に進んでもらうという研修プログラムを行った。 ・<u>2年生向け</u>には、春と秋の2回、2年次用の「自己診断テスト」とそれに対する「解説ガイダンス」を行い、3年生になる前の自己理解対策にあてた。また、2年生向けには、上記3年生向け支援につながるよう、外部機関によるモチベーションアップのためのグループワーク研修も行った。 ・<u>1年生向け</u>には、基盤教育院の1年次科目である「自己実現とキャリアデザイン」という授業の中で、初年次用の「自己診断テスト」とそれに対する「解説ガイダンス」を組み込み、その中で実施した。 <p>また、<u>1年生向け</u>には、別途、高校・大学の双方の学生支援に定評のある NPO 法人の協力を得て、「モチベーション for キャンパス」と称する、<u>先輩学生(他大学の学生も含む)の生き様から自分の学生生活を考えさせるセミナー</u>も行った。</p> <p>何が、どのように変わったのか</p> <p>1年生～3年生（春学期）にかけての、一つのつながりを持った形での支援策が学生に認知されつつあり、授業や学生生活および学内全般における各種プログラムへの参加の大切さと、将来設計の必要性など、低学年の時点で気づける学生を増やすことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントや支援プログラム参加者数のさらなる底上げ。 ・大学院生へのフォロー不足のため、そのフォロー強化。

⑦ キャリア教育、キャリアガイダンスの強化。

主管部局 (担当者) : 基盤教育院
 関連部局 : キャリア開発センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
基盤教育院	これまでのキャリアガイダンス科目のさらなる充実をめざし、厳しさを増す就職事情を踏まえたうえで、実情に則した内容として発展を図る。	完了	基盤教育院ではキャリアガイダンス科目として、①大学での学びと経験、②自己実現とキャリアデザイン、③キャリアデザインⅠⅡ、を設置している。①②は初年次段階でのキャリア教育として、③はキャリア開発センターが3年生を対象に就職活動を具体的に支援するための教育をおこなっている。 2011年度の①と②の履修者は、初年次の学生や2年生だけでなく、3、4年生も履修し、学士課程4年間を通じたキャリア教育として、充実させることができた。また、③においては、キャリア授業スタッフによって12クラスが開講され、約1,000人の履修者を対象に実践的内容で学生の就職支援を図ってきた。こうした取り組みの結果、厳しい就職事情のなか、実情に則した内容を提供することができた。	構造的な不況の中、キャリア教育への課題は大きいですが、学士課程教育におけるキャリアガイダンスとして、学生にとって成果が実感できる内容を提供していきたい。
高等学校・中等学校	(1) 本学が育てるに相応しい進学機会の積極的な開発 ①キャリアガイダンスを充実させる	完了	父母、卒業生、大学生の支援を仰ぎ、中学で年3回実施している。	2012年度中期目標に掲げている。

⑧ インターンシッププログラムの充実 (勤労観、職業観を体験的に学ぶ機会の提供)。

主管部局 (担当者) : 教育・研究支援センター
 関連部局 : キャリア開発センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
教育研究支援センター	2010年度まで教務部 (各学群)、キャリア開発センター、国際交流センターの3部署で行われてきた活動を更に充実させることができるよう、検討する。	一部完了	・3部署で実施中のプログラムについて、情報を収集し、実態を把握した。 ①教育支援課 (各学群) 所管の授業科目としてのインターンシップ 2010年度 : 派遣先数31件、派遣人数76人 2011年度 : 派遣先数45件、派遣人数118人 ②キャリア開発センター所管の課外活動としての国内インターンシップ 2010年度 : 派遣先数67件、派遣人数148人 2011年度 : 派遣先数71件、派遣人数139人 ③国際センター所管の海外インターンシップ 2010年度 : 派遣先数5件、派遣人数9人 2011年度 : 派遣先数7件、派遣人数6人 (1人途中辞退)	・3部署が所管するプログラムがそれぞれに持つ問題点、充実方法について、詳細に把握し、充実策を提示する。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
支援センター 教育研究			<ul style="list-style-type: none"> 各部署での充実へ向けた検討・努力が行われているが、それぞれに性格の異なった事情があり、全学まとめた充実策を打ち出せずにいる。 時間的、金銭的（特に海外インターンシップ）な困難があり、参加希望を持ちつつも参加できない学生が多いという状況にある。 	
ビジネス メソッド 学群	前年度に引き続き旅行会社との協力関係を築く	完了	観光産業実習やレジャー産業実習で学生を受け入れていただいている旅行会社を学群の行事やフィールドトリップ、観光産業実習等で積極的に利用した。	
大学院	<経営学研究科> インターンシップの実施	一部 完了	・関連授業では課程内授業と企業を中心とする外部体験を踏まえたプログラムが実施されているが、インターンシップに関して必要があれば研究科で実施のための議論をする。	必要に応じて議論する。
	<大学アドミニストレーション研究科> (インターンシッププログラムの充実) 研究科、専攻の単位で検討を行い、必要があれば実施のための制度を設ける。	一部 完了	学生の大半が有職者でその必要性はないが、大卒後ストレートに入学してきた学生のためにインターンシップを用意する方向で、検討を継続している。	インターンシップの受け入れ先の開拓が課題となる。

5. 学士力・就業力育成支援

① 図書館が授業と連携し、学習・教育を支援する。

主管部局（担当者）：図書館メディアセンター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
図書館 メディア センター	前年度同様、リサーチ（インプット）・スキル（情報収集）を支援する。 <ul style="list-style-type: none"> 図書館オリエンテーション 図書館利用ガイダンス 情報検索中心ガイダンス 新たに、アウトプット・スキル（情報発信）を支援 <ul style="list-style-type: none"> 3年次基礎演習ゼミ論、4年次卒業論文作成の支援 	完了	(1) リサーチ（インプット）・スキル（情報収集） ①図書館オリエンテーション 大学のオリエンテーション期間中に、パワーポイントを用いて図書館利用について説明するもの。総合文化学群、健康福祉学群の新入生・編入生、大学院、RJ留学生、留学生別科の新入生に対して行った。 ②図書館利用ガイダンス 1年生を対象とし、授業の1コマを使って行うガイダンス。学生が図書館を見学し、図書館の利用方法について説明を受け、実際にPCを使って情報検索の実習までを行うもの。このガイダンスが最も基本的なものであり、初年次に行うことの意義が	<ul style="list-style-type: none"> 初年次に行っている図書館利用ガイダンス実施率を上げる。 LA学群：2011年度学群全体クラス数の90%実施をめざす。 BM学群：学群全体ではなく個別の教員対応となった。各教員に対してガイダンスの必要性について理解を求め、2011年度学群全体クラス数の50%実

担当 部門	実施計画	取り組 み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
図書館 メディア センター			<p>大きい。</p> <p>今年度は大震災の影響で、春学期は授業期間が15週から12週へ短縮された為、例年より実施クラスが減少した。特にBM学群においては、基本的に実施しない事となり、個別に教員が希望したクラスのみで実施という結果となった。</p> <p>③情報検索中心ガイダンス</p> <p>主としてレポート、卒論を書くために情報検索ガイダンスに特化したもの。</p> <p>今日ではコンピュータを利用した情報検索、文献検索が一般的となり、タイトルや著者、主題など書誌情報のみならず、抄録や全文を検索する文献システムが利用されている。このように大量のデータを対象としたシステムを検索（予め蓄積・組織化された情報源の中から、必要とする文献や情報を探し出すこと）するには、ガイダンスを受けて利用スキルについて習熟する必要がある。</p> <p>(2) アウトプット・スキル (情報発信)</p> <p>3年次基礎演習ゼミ論、4年次卒業論文作成の支援</p> <p>クラス単位ではなく、個別に学生一人ずつの疑問に対して支援を行うもの。</p> <p>春学期は、震災で中国書庫の書架が全倒壊し休館する等の影響で、このガイダンスは実施できず、秋学期のみの実施となった。</p>	<p>施とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在実施していない総合文化学群、健康福祉学群は学群の特質性から、図書館利用ガイダンスには消極的傾向である。 <p>次年度は各学群の1クラスでも実施するよう、教員へ働きかける。</p> <p>「3年次基礎演習ゼミ論、4年次卒業論文作成の支援」については、春学期から実施し、2011年度実績の50% up とする。</p>

Cornerstone 6 : ブランドの構築

1. ブランドイメージの再確認

① 学園が志向する教育のあり方を明確に表現する。

主管部局 (担当者) : 幼稚園、中学校・高等学校、入試広報センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの内容更新 幼稚園便りの発行 幼稚園パンフレットの作成 	完了	上記の取り組みの他、幼稚園の紹介DVDを作成 (6月)	
入試広報センター	<ul style="list-style-type: none"> 建学の精神、モットーを広報・広告に多用する。 従来なかった学園全体を紹介する学園案内 (日英併記) を制作する。 大学Webサイトリニューアルに際し、学び方や学群・コースの特徴を明確に表現する。 	完了	<p>○学園創立90周年を切り口にした広報・広告を展開し、その中で建学の精神やモットー、そしてその実例を具体的に取上げて訴求した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フジサンケイ ビジネスアイ 4月1日 桜美林特集 (8ページ) ・リクルート ムック『大学の約束ー2020年選ばれる大学』 ・週刊朝日ムック『建学の精神で知る大学の力』 <p>など。</p> <p>○学群・コースの特徴を具体的に訴求する出稿を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読売新聞「リベラルアーツ特集」 ・機内誌：JAL、SKYMARK ・PFC壁面広告 ・『BRUTUS』、『MOSTLY CLASSIC』 <p>など</p> <p>○学園案内制作完了。</p> <p>○Webサイトについては、5月に大学・受験生サイトからリニューアルを実施し、その後8月にその他の大学各サイトが新サイトに切り替わった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の組織改編にともなう事務分掌の変更により「学園のブランディング」は経営企画室が担当することとなったが、当センターは各種広報・広告の実施部門として緊密に連携していく。

② 教職員の理解を高め、努力の方向性を共有する。

主管部局 (担当者) : 入試広報センター

関連部局 : 教育・研究支援センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
入試広報センター	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌 (『OBIRINER』: 2回/年、『OBIRINER PLUS』: 5回/年発行) を通じて情報共有を促進する。 ・新Webサイト内オベリンナーサイトの内容を充実させ、また使いやすいものにする。 	完了	<p>○学内広報誌『OBIRINER』『OBIRINER PLUS』の編集に際し、幅広く取材対象を選考し、読者の関心を高める工夫をしつつ、教職員のベクトル合わせに資する内容を多く記事化した。</p> <p>○学園創立90周年関連の企画を各種展開し、建学の精神、およびそれが現在どう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の組織改編にともなう事務分掌の変更により「学園のブランディング」は経営企画室が担当することとなったが、当センターは

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
入試広報センター			<p>学園に息づいているかを掘り起こし、発信した。</p> <p>○世界各地で活躍する卒業生を発掘・紹介することで、桜美林の底力を再認識できるものとした。</p> <p>○学生の活動、特に震災後のボランティア活動や各種の支援施策について詳報した。</p>	各種広報・広告の実施部門として緊密に連携していく。

- ③ 本学園の理念や目標が学生や社会に適切に伝えられているかどうか調査し、問題点を確定して改善を図る。

主管部局（担当者）：入試広報センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
入試広報センター	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関によるブランドイメージ調査を活用し、本学園のポジションを確認し改善を要する点を絞り込む。 海外向け情報発信・広報を強化する。 	一部完了	<p>○2010年に引き続き、2011年も実施された「大学ブランドイメージ調査」の結果分析により、「首都圏においては桜美林の知名度・認知率はかなり高いものがあるが、その特徴がはっきりしていない」との問題点が浮かびあがった。</p> <p>○『CHINA DAILY』『FOREIGN AFFAIRS』『外灘画報』など海外で発行される新聞・雑誌の取材を積極的に受け、広告掲載なども通じて本学の先進性・国際性を強くアピールした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の組織改編にともなう事務分掌の変更により「学園のブランディング」は経営企画室が担当することとなったが、当センターは各種広報・広告の実施部門として緊密に連携していく。

2. 広報機能の強化

- ④ ITを活用し、効率の高い広報スタイルへ転換する。

主管部局（担当者）：入試広報センター

関連部局：情報システムセンター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
入試広報センター	<ul style="list-style-type: none"> Webサイトをリニューアルし、動画・映像を多用する。 大学Webサイト上のニュース&トピックスに掲載する話題の幅を広げ、件数も大幅に増やす。 	完了	<p>○5月に大学Webの受験生サイトから始め、8月にはその他のサイトもリニューアルを実施。トップページで「桜美林TV」や「PAGE CLIP」機能を見せるなど、動画・映像を多用した新サイトの特徴をユーザーにわかりやすく紹介している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> さらに動画・映像の種類・本数を増やすことおよびそれぞれの画質・アングルなどの品質を高め、訴求力を向上させる。 印刷媒体との連動性を高める。

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
総合文化学群	<造形デザイン専修> IT利用の広報活動は、2011年度も継続するが、5月以降の本学Webサイト改訂版において、組込まれる予定。	一部完了	造形デザイン専修のブログは基礎科目から卒業研究まで、全学年の作品を掲載しているだけでなく、芸術体験プログラム、地域交流・社会活動などの課外活動なども掲載し、適宜更新しており専修のPR効果が期待できる。現在は外部のサーバを利用しているが、本学のサーバへの組み込みは2012年度の見込み。	

3. 同窓会・後援会との連携強化

- ⑤ 同窓会交流、卒業後のキャリア支援の充実。同窓会、後援会との連携の深化。

主管部局（担当者）：局長 PT（校友会）

関連部局：中学校・高等学校、経営企画室（同窓会）

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
マネジメント学群	2011年度ホスピタリティ桜美林会をディズニーランドで実施（ディズニーアカデミーへの参加を予定）	完了	2011年度ホスピタリティ桜美林会をディズニーランドで実施した [予定通り、ディズニーアカデミーに在校生を含む約180人（3クラス設定）が参加した]	ホスピタリティ桜美林会をベースに他の産業についても卒業生と在校生が交流できる場を構築していきたい。

Cornerstone 7 : 本学園が望む学生を確保する仕組

1. 独自の募集・選抜方式の開発

① 大学においては、「桜美林方式」の募集、選抜方法の開発（本学園の望む学生の確保）。

主管部局（担当者）：入試広報センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
入試広報センター	目標定員を確保すべきという点について、学群の判定会議の度に慎重に議論を行っている。	一部完了	既存の選抜方式の一部再編を行い、「大学特別選抜」として組みなおした。高校訪問時に積極的にアプローチした結果、特に「大学特別選抜」のうちの「特別奨学生選抜」は43人の受験生を得た。 この43人のうち、特別奨学生としての合格は8人。残り35人名は一般合格となったが、34人名が入学手続きをした。評定平均値が4.3以上の学生でもあり、入学後の実績が期待できる。	今後も積極的に「大学特別選抜」の学生募集活動を行い、優秀かつ、本学園の望む学生を確保したい。 また「同窓生徒」の学生募集については同窓会、後援会と連携し志願者増につなげたい。
学群リベラルアーツ	A0入試での質保証のために図書を指定し、その理解力を面接にて問う方式の継続。作問を独自に行い、質の高い入試を行う。	一部完了	2011年度も引き続き、A0入試において課題図書を指定し、面接において読解力を問う方式を継続した。また、入試における独自の作問だが、こちらも一般入試の数学において、LA学群の教員が学群の現状とニーズに即した問題を作成した。	2013年度の一般入試に向け、理科の科目設定を検討していく。

② 中高においては、募集の多様化と優秀な学生の確保。

主管部局（担当者）：中学校・高等学校

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
中学校・高等学校	<p>(1) 募集戦略の多様化で優秀な入学者の確保</p> <p>1) 入試問題の質の向上</p> <p>①入試問題を徹底的に研究する</p> <p>②正答率を算出し、適した入試問題であるかを検証</p> <p>2) 中学校応募者の確保</p> <p>①入試制度の検討</p> <p>午後入試、帰国生入試、入試日程、入試科目</p> <p>②学校説明会の内容の検討</p> <p>セールスポイントの確認、教科教育の丁寧な説明</p> <p>3) 高等学校応募者の確保</p> <p>①入試制度の検討</p> <p>入試日程の検討、推薦入試(一般、スポーツ)、一般入試</p> <p>②学校説明会の内容の検討</p> <p>セールスポイントの確認、教科教育の丁寧な説明</p> <p>③公立校との違いの鮮明化</p>	一部完了	<p>(1) - 1) - ①・②については、入試問題検討委員会での入試問題の適正化を図った。今後は、入試問題の徹底研究を教科に依頼する必要がある。</p> <p>(1) - 2) - ①については、帰国生入試を廃止し、毎回の試験で帰国生を優遇する制度に変更した。中学入試会場を町田校舎だけで行った。</p> <p>(1) - 2) - ②については、継続して行っている。</p> <p>(1) - 3) - ①については、都以外の受験生に対し、高校推薦入試で併願推薦を導入した。</p> <p>(1) - 3) - ②については、継続して行っている。</p> <p>(1) - 3) - ③については、未着手。</p>	2012年度中期目標に掲げている。

2. 指定校の拡充と効果的アプローチの実施

③ 指定校の拡充（望ましい学生の確保）。

主管部局（担当者）：入試広報センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
入試広報センター	指定校の拡充について、具体的な取り組みとしては、学群として必要な基礎学力の部分を学群ごとに慎重に検討した上で、指定校推薦にかかる全体としての評定平均値を調整した。 さらに、指定校の見直しも含め、検討を重ねている。2013年度選抜に導入すべく前もって告知することも含めて、既に実質的協議・検討を重ねている。	一部完了	高校側の意見ならびに他大学の動向を鑑み、改善した。 各学群の基礎学力は担保しながらも、受験生増につながる事を目的とした。 指定校枠の増については以下の方針で実施した。 ・新規に指定校枠の要望があった高校に対して在学生の成績状況等考慮し新規枠を付与。 ・既存枠の増加希望の高校に対して在学生の成績状況等考慮し新規枠を付与。	指定校推薦入試の志願者減については、高校訪問を実施し、ヒアリングをすする事により改善を図りたい。 また指定校枠増等の要望については申請を待つのではなく、こちらからアプローチして上記方針により、積極的に付与し、優秀な学生を集めたい。
大学院	<言語教育研究科> 中国の提携大学からの推薦入学制度を設けることについて検討する。	完了	日本語教育専攻ではすでに実施している。	引き続き、この状態を維持し、さらに推進していく。
	<大学アドミニストレーション研究科> 中国の提携大学からの推薦入学制度を設けることについて検討する。	未着手	これまで、提携校から本専攻への志願実績がなく、本格的な検討にはいたっていない。	2013年度改革の中で、検討する。

④ 高校や関係機関に対する効果的なアプローチを展開するための専門スタッフの組成。

主管部局（担当者）：入試広報センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
入試広報センター	キャラバン隊を実現させ、特に総合文化学群の志願につながる募集活動を行いたいと計画している。 これまでは待ちの状態であったが、攻めの行動に出ることとし、インターナショナルスクールに対しても積極的に活動を行う。	一部完了	学園事務局・経営企画室の協力により、キャラバン隊発足により、総合文化学群の学生募集を中心に高校訪問を実施した。 訪問するにあたり総合文化学群音楽専修・造形デザイン専修・映画専修において以下の通り指定校を付与した。 1年だけで実績を見ることは難しいが、上記3専修では一定の成果が得られた。 また、高大連携校をはじめ、実績のある高校に対してアドミッションオフィサーは年3回（5月、11月、3月）アポイントを取り訪問し、意見交換等により更なる信頼関係を築いた。 インターナショナルスクールに対して積極的に活動はしなかったが、質の高い留学生確保の観点から専門職員により日本語学校を訪問し、学生募集活動を実施した。	入試広報センターを中心としてキャラバン隊の協力を得、高校別に担当者を割り振り、地方担当、日本語学校担当という担当制としきめの細かい学生募集活動を実施する。

3. 「連携校」関係の構築

- ⑤ 連携校（設置校と指定校の中間的位置づけ）による望ましい学生の確保（特に、キリスト教学校教育同盟）。

主管部局（担当者）：入試広報センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
入試広報センター	高大連携校のみを対象とし、重点特化したプログラムを新たに企画を考える時期にもきている。個々の対応にも本部署や教員側も人的時間的にもかなりの負担とも言える。高校側の要望日時にも全てに対応できないので、オープンキャンパス以外に特化した独自のプログラムを企画することは急務である。	未着手	新たに高大連携校を1校、オブザーバー校を3校増やした。出張授業等も積極的に実施し、関係構築を図った。キリスト教学校教育同盟校に対しては十分なアプローチができていない。	高大連携校の拡充を図る。受験者数、入学者数、在学の成績等を考慮し高校を選定し、当該高校と連携する。

4. 募集広報方式の改革

- ⑥ 募集広報のメディアミックスによる効率的、効果的な募集広告の展開。

主管部局（担当者）：入試広報センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
入試広報センター	資料請求者が増える一方、志願者数が減少した現状を踏まえ、過去参画した広告媒体の資料請求者数や志願者数などの分析データをもとに、資料請求数ではなく、出願に結びつく効率の良い広告媒体を選定し、実施していく。また、広報部門と連携し、資料請求数が一番多い大学Webサイトのリニューアルを行う。中でも受験生サイトについては、高校生への情報提供に留まらず、より訴求力を高めた広報を展開していく。各学群の特色を効果的に伝えるために、学群別リーフレットなどの広報ツールを制作し、資料請求者や相談会参加者など高校生だけでなく、高校訪問時に進路指導担当教員に対し活用していき、より効果的な募集広報を実施していく。	一部完了	出願に結びつかない広告媒体を絞り、JR横浜線、小田急線、京王線の車内広告をオープンキャンパス開催前の6月～7月、一般入試出願前の11月～12月に実施するなど、メディアミックスを意識した広告を展開した。受験生サイトを6月にリニューアルした。学群別リーフレットについては、カリキュラム改訂のあったビジネスマネジメント学群と総合文化学群については制作し、活用した。 (結果) オープンキャンパス動員数は昨年度比一定の成果が見られた。	次年度においても参画した広告媒体の資料請求者数や志願者数などの分析データをもとに、資料請求数ではなく、出願に結びつく効率の良い広告媒体を選定し、実施していく。

Cornerstone 7 : 本学園が望む学生を確保する仕組

担当 部門	実施計画	取り組 み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
中 学 校 ・ 高 等 学 校	(1) 募集広報 ①教職員全体による塾・学校訪問を実施 ②Web活用を含めた募集広報のメディアミックス ③時代にあった広報の展開 ④広告費投下の効率化	一部 完了	(1) - 1) - ①については、広報担当者は一年中、他の教員は第2学期に訪問を実施している。 (1) - 1) - ②・③については、未着手。 (1) - 1) - ④については、紙媒体の見直しを行い、Web媒体の広報を検討している。ただし、定量的な分析には到っていない。 学校説明会については、毎回の説明会の内容に変化をつけている。また、在学している生徒を登用している。教科からの説明は入試問題の説明で触れる程度で、教科内容の丁寧な説明は行っていない。	2012年度中期目標に掲げている。

Cornerstone 8 : アカウンタビリティの確保

1. 点検・評価の実施

- ① 第三者評価（大学にあっては認証評価）と自己点検・評価を必須の活動と位置づけて、計画的、定期的の実施し、結果を公表する。

主管部局（担当者）：幼稚園、中学校・高等学校、大学教育開発センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・自己評価の実施と公表 自己点検・自己評価結果を基に研修会の実施改善ポイントの改革 	完了	保護者対象アンケート結果を基に、自己点検研修会を実施：5月11日、6月15日 前年度の結果を6月の幼稚園Webサイトにて公表。 2011年度も引き続き在園児の父母対象にアンケート調査を実施（1月）。	
中学校・高等学校	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自己点検・評価および第三者への公表 (2) 評価結果の学校運営への反映および効果的な改善への取組 ①PDCAサイクルを確立する 	一部完了	(1)、(2) - ①については、授業アンケートを実施しているが、それ以外の正確な分析等には着手できていない。	2012年度中期目標に掲げている。
大学教育開発センター	自己点検・評価委員会により2010年度に作成した「自己点検・評価報告書」をベースとして、5月1日時点のデータを基として2011年度の「自己点検・評価報告書」が製作される。	完了	自己点検・評価委員会により2010年度に作成した「自己点検・評価報告書」をベースとして、5月1日時点のデータを基として2011年度の「自己点検・評価報告書」に編集し直し監修も加え、大学機関別認証評価を行った。評価結果はまだ出ていないが、ある程度の水準を満たしていたと判断している。	「自己点検・評価報告書」に記述されない部分について不十分な点についても、明らかになったことがある。今後の課題として、認証評価結果の指摘も含めて、PDCAサイクルのなかで展開されるよう、改善・伸張方策を促し提起していく。

2. コンプライアンス管理の徹底

- ② 法規制の遵守状況や、教育現場・職場におけるハラスメントの防止状況を点検し、内部監査の仕組みを導入することにより、コンプライアンスが確実に維持される仕組みを整える。

主管部局（担当者）：総務・人事センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
総務・人事センター	<ul style="list-style-type: none"> 1) 過去の内部監査の状況について点検、評価。 2) 社会保険労務士との顧問契約締結を検討。 3) ハラスメント防止研修等の実施内容を検討。 	完了	1) これまでの内部監査に関する事項を検証し、かつ、他大学の内部監査の設置の必要性、その趣旨、機能等々の情報収集を行った。結果、監査事務局にて「内部監査規程（案）」および「監査事務局規程（案）」を作成し、常務理事会にて承認された。また、当年度の「内部監査計画」を立案した。「内部監査実施要項」も監査事務局にて作成し、「幼稚園」「入	

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
総務・人事センター			<p>試広報センター」「教育支援課（大学院事務室）」を内部監査した。</p> <p>計画通り、3部局とも内部監査は完了し、「内部監査報告書」は「内部監査調査」と併せて、常務理事会（理事長）に年度末に提出した。</p> <p>2) 現時点ではスポット対応とする方針。（状況により契約を締結する可能性もあり。）</p> <p>3) 啓発活動の一環として、次のハンドブック等を作成。</p> <p>①教職員向け 『ハラスメント防止と相談のためのハンドブック』（A5版30頁）を作成。新年度始めに全教職員（非常勤教員を含む）へ配付する予定。</p> <p>②学生向け 『STOP！デートDV～あなたとあなたの大切な人のために～』（A5版10頁）を作成。新年度始めに新入生ならびに在校生全員に配付する予定。</p>	
大学院	<経営学研究科> ハラスメントの防止状況などの点検	完了	・研究科委員会で、パワーハラスメント・アカデミックハラスメントについての注意を促し、担当者を決め、情報の共有化に努める。	引き続き取り組む。

3. 改革・改善を図る体制の構築

- ③ 上記を踏まえ、内部監査組織の整備を含め、確実に改革・改善を進めるための仕組みを整える。

主管部局（担当者）：総務・人事センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
総務・人事センター	1) 監査事務局の強化。 2) ハラスメント防止委員会の点検、評価。	一部 完了	<p>1) 4月、監査事務局に専任職員を配置した。結果、従前と比して「強化」と判断できるが、本来の機能と機動性が十分に発揮できなかった。</p> <p>2) 個々の案件に対応しながら、点検・評価を行っている。</p> <p>(完了しなかった事由)</p> <p>1) 当該職員が大学教育開発センター事務室も兼務しており、かつ今年度は特に、機関別認証評価の業務・進行管理も行わなければならないなかった、という特殊な事由があったため。</p>	1) 監査協議会を設置することにより、①現監査事務局の人的・量的限界を克服できる、②監査による指摘事項等を一層多角的に評価できる、等の効果が期待できる。

Cornerstone 9 : 組織機構と人事管理の改革

1. 学園全体の組織機構の確立

① 学園の組織機構の確立。

主管部局 (担当者) : 局長 PT (総務)

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
局長 PT (総務)	組織の整備、意思決定のプロセス、運営管理の方法を2011～2012年度にかけて検討。 ・各部門(役員・教育・事務)と会議体の所管内容・役割を分析、検討。 ・寄附行為を含む諸規程の見直し。	完了	・学園長の職務権限等の見直しに伴う寄附行為変更認可申請を行い、平成24年1月25日付けで認可された。 ・設置校長選考規程等の見直しを行った。 ・7月1日の事務組織改編に合わせ、学生サービス部門長会議と事務部門長会議を統合した。	・本計画は、2011～2012年度の2年間にわたり継続して取り組む計画であるので、更なる効果が得られるように取り組む。

2. 教職員研修の積極的実施

② 教職員研修の継続的な実施、意欲的に能力を発揮できる仕組み。

主管部局 (担当者) : 局長 PT (総務)、大学教育開発センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
局長 PT (総務)	1) 職員研修制度の構築。 2) 新入職員研修および指導員層(中堅職員層)への研修実施。 3) 準管理職職員および管理職職員への研修実施案の策定。	一部 完了	1) 職員研修制度の全体素案構築完了。 2) 4月、新入職員に対する入職時研修を実施。フォロー研修および指導員研修については、年度末もしくは次年度初めに実施予定。また、新入職員層および中堅職員層に課題図書を配本し、レポートの提出を義務づけた(課題図書名: 大学教職員の基礎知識)。 3) グループディスカッション形式での実施を検討中。 (完了しなかった事由) ・職員人事制度を再構築する過程で、具体の検討を行うことにしたため。	
大学教育開発センター	FDに関する全学向けの学内シンポジウムを1回予定している。(※本シンポジウムはこれまで年2回開催してきたが、本年は大学基準協会の認証評価への対応もあり、年1回のみ)	完了	【概要】 FDに関しては、全学のFD活動を把握し、広く学内での情報共有に努める目的で「第2回FD実施状況調査」を行い、この結果を報告書にまとめ学内に配布した。 SDに関しては、第6回大学教育開発センター学内シンポジウムを、以下の通り開催する。テーマは「これからのSDを考える」、基調講演は「これからの大学職員とSD」と題して山本眞一先生(広島大学高等教育開発センター教授)。	

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
大学院	<p><経営学研究科> 大学院研修などを通じて、意欲的に能力を発揮できる仕組みの検討を行う。</p>	完了	<p>・年2回大学院研修会の実施に伴い、研究会ならびに研究科委員会において、教育と研究の質を一層向上させるための検討を行う。</p>	さらなる向上をはかる。
	<p><言語教育研究科> 大学院研修会および研究科委員会、専攻別会議において、教育と研究の質を一層向上させるための検討を行う。</p>	完了	<p>研究科として、大学院研修会には参加してきたし、月1回以上の研究科委員会も開催している。また、必要に応じて、専攻別会議や四役会議(研究科長、両主任、教務委員、入試戦略委員)を開いている。修了生と在学生の研究交流の機会としては、言語教育研究所、言語教育評価研究所の紀要は発表会で行っている。また、本学の英語教育専攻・日本語教育専攻の修了生を中心に組織している「東京言語文化教育研究会」も近隣の大学院生や教員を会員として活動している。</p>	引き続き、上記の活動を活発にしていきたい。
	<p><大学アドミニストレーション研究科> 大学院研修会および研究科委員会、専攻別会議において、教育と研究の質を一層向上させるための検討を行う。</p>	完了	<p>研究科として、研究科としての履修ガイドである「学修の手引き」を毎年刊行し、修了生と在学生の研究交流の機会である「大学アドミニストレーション健遊会」を毎年2回開催し、研究科としてお研究紀要を発行するなど、研究科委員会と研究科PD研修会等を通じて、教育と研究の質の一層の向上を図った。</p>	これまでの実績を踏まえ、さらなる向上策を検討する。

③ グローバル時代に対応できる教職員の育成（言語、国際的視野、国際感覚）。

主管部局（担当者）：総務・人事センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
総務センター 人事	<p>・②の職員研修制度の構築と連動しながら、職員能力開発を念頭においた「職員海外派遣研修」制度案を構築。制度化に向けての情報収集、実施計画を検討。</p>	一部 完了	<p>・他大学や企業の情報を収集。今後も継続して検討を進めていく。</p> <p>(完了しなかった事由)</p> <p>・職員人事制度を再構築する過程で、具体の検討を行うことにしたため。</p>	

3. 教職員がやりがいをもって働ける環境の整備

④ 教職員の働く意欲、生きがい、安心感、環境整備。

主管部局（担当者）：総務・人事センター

関連部局：キャンパスデザイン・管理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
総務・人事センター	・本項目は、「2. 教職員研修の積極的实施」「4. 教職員人事制度の抜本的見直し」「5. 業務の合理化・効率化の推進」「6. 人員計画の確立」の総括。「2011年度事業計画」の各項目を参照。	一部 完了	<ul style="list-style-type: none"> ・「2. 教職員研修の積極的实施」については、コーナーストーン9-2-②および③を参照。 ・「4. 教職員人事制度の抜本的見直し」については、コーナーストーン9-4-⑤を参照。 ・「5. 業務の合理化・効率化の推進」については、コーナーストーン9-5-⑥を参照。 ・「6. 人員計画の確立」については、コーナーストーン9-6-⑦を参照。 	

4. 教職員人事制度の抜本的見直し

⑤ 教職員の人事制度の抜本的見直し。

主管部局（担当者）：局長 PT（総務）

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
局長 PT（総務）	・職員人事制度の見直しを円滑に進めるための学内手続き・方法を検討。	完了	・現行の職員人事制度の点検・評価を行った。また併せて、職員人事制度の見直しを実現するための学内手続き・方法について検討を行い、一定の結論を得た。	

5. 業務の合理化・効率化の推進

⑥ 事務部門の業務プロセスの全体的な見直し、合理化、効率化。

主管部局（担当者）：局長 PT（総務）

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
局長 PT（総務）	・事務分掌規程を改正し、それに基づき7月に事務組織の改編等を実施。	完了	<ul style="list-style-type: none"> ・事務分掌規程の改正案と事務組織の改編案を策定。結果、5月26日の常務理事会で承認され、7月1日から施行。併せて、人事異動を実施。 事務組織改編の目的は、大括り化による事務効率化であり、部課長等の判断で柔軟かつ臨機応変に職員の配置転換を行うことが可能となった。 	・改編後の事務組織について、点検・評価が必要。

6. 人員計画の確立

⑦ 教員定数、職員定数を定め、中長期の人事計画の策定、計画的な採用と育成。

主管部局（担当者）：局長 PT（総務）

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
局長 PT（総務）	1) 教員定数案を実質化するための学内調整を開始。 2) 職員定数（仮）を策定し、これに基づき7月に人事異動を実施。 3) 契約職員から専任職員への登用制度構築について検討。	一部完了	1) 学内調整を開始するには至らなかった。 2) 事務組織改編に合わせ、職員定数（仮）を策定。これに基づき、7月1日に人事異動を実施。 事務組織改編の目的は、大括り化による事務効率化であり、部課長等の判断で柔軟かつ臨機応変に職員の配置転換を行うことが可能となった。 3) 職員人事制度を再構築する過程で、具体の検討を行うこととなった。 （完了しなかった事由） 1) 準備不足、かつ検討不足。	1) 理事会等の強い意思決定が必要。 2) 職員定数（仮）について、点検・評価が必要。
高等学校・中学校	(1) 教員定数・職員定数を定める ①教職員でキリスト教信者を一定数確保する	完了	(1) -①については、適切に教職員が配置されているかを検証し、キリスト教学校教育同盟HPで公募するなどクリスチャン教員確保に努めている。	2012年度中期目標に掲げている。

7. 危機管理体制の点検

⑧ 危機管理体制の見直し、マニュアル化、訓練の徹底（自然災害、傷病、事件事故、情報漏えい等）。

主管部局（担当者）：総務・人事センター

関連部局：キャンパスデザイン・管理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
総務・人事センター	<ul style="list-style-type: none"> 想定危機の洗い出しを行う。 現状の危機管理体制について分析する。 危機管理マニュアル策定の準備を行う。 	完了	<ul style="list-style-type: none"> 6月、事務局長のもとに危機管理プロジェクトを立ち上げ、①防火・防災、②防犯、③感染症・食中毒の3チームに分かれて、具体の検討等を開始した。 各チームで、既存の危機管理対応マニュアルの見直しと点検を行い、新マニュアルのたたき台を作成した。 4月、教職員全員の名札着用、地震時対応チラシ配付。7月に非常食試食による啓蒙活動を実施した。 	
中学校・高等学校	(1) マニュアル化と訓練 ①火事、地震を含めた自然災害対策 ②情報漏えい対策 ③不審者対策 ④事件事故対策	完了	(1) -①・②・③・④については、地震対策については従来のマニュアルの見直しを行った。災害緊急カードを生徒全員に提出させた。また、避難訓練を2度行い、災害用備蓄品リストの検討を行った。	2012年度中期目標に掲げている。

Cornerstone10：健全な財務の構築と維持

1. 帰属収支差額の確保

① 帰属収支差額 10%を実現。

主管部局（担当者）：財務・経理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
財務・経理センター	2012年度予算編成についての方針策定作業を早期（6、7月頃）に開始し、かつ事業別の収支明確化を可能にするための現行システム見直しを進める。	完了	7月に予算プロジェクトを立ち上げ、事業計画を主に予算編成をする方向性を決め、事業別の収支を明確にすべく、形態別予算書とは別に、事業計画申請書により、予算申請させる方式を用いることとした。なお、予算編成方針については11月の常務理事会で承認された。	各予算単位から申請された事業名の中には、集約しすぎや簡略しすぎなどがあり、正確にその事業を表していないものが見受けられ、事業名称の整理が課題と考える。

② 帰属収入に対する人件費の比率を 50%程度。

主管部局（担当者）：総務・人事センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
総務・人事センター	1) 教員定数案を実質化するための学内調整を開始。 2) 職員定数（仮）を策定し、これに基づき7月に人事異動を実施。	一部 完了	1) 学内調整を開始するには至らなかった。 2) 事務組織改編に合わせ、職員定数（仮）を策定。これに基づき、7月1日に人事異動を実施。 事務組織改編の目的は、大括り化による事務効率化であり、部課長等の判断で柔軟かつ臨機応変に職員の配置転換を行うことが可能となった。 (完了しなかった事由) 1) 準備不足、かつ検討不足。	1) 理事会等の強い意思決定が必要。 2) 職員定数（仮）について、点検・評価が必要。

③ 教育研究経費の比率を 30%程度。

主管部局（担当者）：財務・経理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
財務・経理センター	2012年度予算編成においても30%程度となるよう調整する。	完了	2012年度予算における教育研究経費比率は、全体として34.3%となった。	予算面での比率は良いが、実際の金額は前年度予算ベースで9%増となったため、全体予算の中で金額を抑えることも必要。

④ 管理経費比率を10%以下。

主管部局（担当者）：財務・経理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
財務・経理センター	2012年度予算編成においても10%以下とすることを目標に調整する。	完了	2012年度予算における管理経費比率は、全体として9.4%となった。	前年度予算比12%減であり、次年度予算で反動が出ないようにすること。

2. 借入金総額の制限

⑤ 借入金総額は総資産の25%以下。

主管部局（担当者）：財務・経理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
財務・経理センター	学園債を除く借入金残高削減をめざして2012年度予算編成に取り組む。	完了	2012年度予算における、学園債を除く借入金は東京都私学財団からの400,000円（入学支度金貸出）のみであり、借入金返済は予定通りに実施する予算ともなっており、残高については返済計画通りに削減される。 2010年度決算時残高 10,197,660千円 2011年度予算時残高 8,912,345千円 2012年度予算時残高 8,026,235千円 2010年度決算時、総資産に占める借入金総額の割合は20.0%となっている。	新たな借入金が必要な場合については慎重に検討すること。

3. 基本金の充実

⑥ 基本金組み入れは、帰属収入に対し10%以上を維持。

主管部局（担当者）：財務・経理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
財務・経理センター	2011年度予算11.0%	完了	2011年度補正予算における基本金組入額は1,511,581,000円、帰属収入は14,921,505,650円となっており、10.1%となっている。 2012年度予算における基本金組入額は1,609,374,000円、帰属収入は14,469,811,350円となっており、11.1%となっている。	

⑦ 奨学金財源確保のため、第3号基本金の充実を図る。

主管部局（担当者）：財務・経理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
財務・経理センター	2010年度決算を踏まえて新規組入の可能性を検討する。2011年度決算および2012年度予算編成において新規組入の可能性を検討する。	完了	第3号基本金は、2010年度末803,324,948円となっており、2011年度決算においては1億円の組入、2012年度予算においても1億円の組入を想定している。	現預金の流動性を著しく損なわないように注意する必要がある。

4. 学納金・補助金以外の収入の充実

⑧ 外部資金、寄付金、事業収入を計画的に増大させる。

主管部局（担当者）：財務・経理センター

関連部局：教育・研究支援センター、その他

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
財務・経理センター	維持寄付金の募集要項を作成し、保護者、卒業生、教職員に配布。Webとクレジットカードを利用した寄付金募集システムの検討、および遺贈を可能にする信託銀行との提携を進める。	完了	2011年度寄付金35,037,176円（2012年1月末時点） 維持寄付金に加え、被災学生支援金を募って本学被災学生への支援にあてている。 Webとクレジットカードを利用した寄付金募集システムについては、複数業者と打合せを行ったが、コストおよび運用管理面の課題もあり、導入には至っていない。遺贈については信託銀行と協議しているが、活用される事例が少ないため信託銀行側が積極的でなく、提携には至っていない。 大学保護者に対しては年2回、高校・中学・幼稚園保護者に対しては年1回、同窓生に対しては年2回（学園債は1回）の発送を行った。	募集および管理運営体制の検討

⑨ 効率化により法人全体の経費削減に努める。

主管部局（担当者）：局長 PT（会計）

5. 中期目標に沿った予算編成

⑩ 中期目標全体に連動した単年度事業計画、予算の策定を行う。

主管部局（担当者）：財務・経理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
財務・経理センター	これまでの事業計画および予算編成のあり方を改善した上で策定する。中期目標の数字、特に帰属収支差額比率を改善するよう予算編成に取り組む。	完了	予算プロジェクトを立ち上げ、予算編成方針を常務理事会の承認を経て明確化し、事業計画を主とした予算編成に改善した。また、中期目標と連動した重点項目を予算編成方針上も明確にした。2012年度予算においては、人件費が80億円、また原価償却額が教・管あわせて13億円、基本金組入額は借入金の返済に伴う分を含み約16億円となり、消費支出超過額の改善には至っていない。	新しい事業を始めるにあたって、既存事業のスクラップまたは経費削減により、新規事業のコストを生み出すことを意識すること。

⑪ 複数年度予算の観点で投資計画に対する財源確保を行う。

主管部局（担当者）：財務・経理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
財務・経理センター	投資計画が財務的に問題ないかどうかを検討し、予算編成に取り組む。2号基本金の活用も検討する。	完了	大きな投資計画は決定されておらず、2012年度予算上、第2号基本金への新規組入も想定されていない。なお、キャンパスPTに出席し、現在の財務状況について説明を行った。	

Cornerstone11：質量両面でのキャンパス高度化

1. 安全安心の確保

① 安全安心かつ快適な教育環境の整備、継続的な推進。

主管部局（担当者）：キャンパスデザイン・管理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キャンパスデザイン・管理センター	学内各所の建物等不具合箇所を予算の範囲で適宜改修	一部完了	経年劣化を主たる対象としての改修を予定していたが、3.11の東日本大震災により学内校舎の一部に損壊が発生。その修繕を最優先としたため、当初の計画に狂いが生じた。築年数が20年以上経過している校舎を中心に今後も適宜不具合の改修を進めていきたい。 【震災による主な修繕箇所】 ・明々館－太平館－崇貞館エキスパンション（各階）補修 ・明々館エレベーター修理 ・学而館内壁補修 ・理化学館内壁、地下室補修 ・徳望館外壁補修 ・図書館書架復旧、内部壁と外壁補修 ・情報メディア館外壁補修 ・又賜体育館柱補修 ・大志館内壁、外壁補修 ・同志館内壁補修 ・幼稚園舎内壁、外壁、漏水補修 ・大学教員オフィス書架転倒復旧	校舎改修も重要事項として継続していくが、直近の課題として今年度は不審者の学内侵入事件や学生の所有するバイクの盗難などが多数発生した。アクションNo.1「安全安心の確保」の視点で考えると、学内での学生・生徒の身の安全をどの様に守るかも重要課題となってきた。次年度については防犯体制について本格的な見直しが必要であると考え
中学校・高等学校	<p>(1) 既設老朽建築物(旧大志館)の耐震化最優先(耐震化、生活導線、バリアフリーの確保、防災防犯の確保)</p> <p>① 中高講堂・特別教室棟の設計継続</p> <p>② 中高講堂・特別教室棟の建築キリスト教学校として多目的に利用できる講堂、自ら学ぶ場所・ラーニングセンター、キリスト教学校としての雰囲気醸し出す建築物、空間の利用、広場の工夫等</p> <p>(2) 中高キャンパスの有効利用</p> <p>① 中学校舎・高校校舎をリンクさせ、既設建物内の有効利用を図ることを継続する</p> <p>② 高校校舎のリニューアルを継続する</p> <p>(3) 教室のデジタル化・ICT化</p> <p>① 中学放送設備のデジタル化</p> <p>② 高校各教室へのテレビの導入</p> <p>③ 高校各教室でパソコンを利用した授業ができる設備の整備</p>	一部完了	<p>(1)－①・②については、未着手であるが、キャンパスデザインセンター、学園事務局長には計画の開始を提案した。</p> <p>(2)－①・②については、大志館の空調設備の更新、壁面・床・天井のリニューアルをした。今後は、机・椅子、ロッカー等、備品の新調、屋上の防水シール、食堂他の照明器具の改修が必要と考えている。</p> <p>(3)－①・②・③については、①の一部が完了し、他は全て完了している。</p>	2012年度中期目標に掲げている。

2. 建設中案件の完成

② 上小山田グラウンド整備、期間内の完成。

主管部局（担当者）：キャンパスデザイン・管理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キャンパスデザイン・管理センター	2011年8月完成予定 (上小山田グラウンド整備、期間内の完成)	完了	大学硬式野球場が完成。 11月19日に奉献式、完成記念試合実施。	照明（ナイトゲーム用）が設置されていないため、夜間使用ができないことが課題。今後どうすべきか検討が必要と思われる。

3. キャンパス中長期整備計画の完成と実行

③ 学園全体のキャンパス中長期整備計画、建設の優先順位に基づく整備。

主管部局（担当者）：局長 PT（キャンパス）

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
局長 PT（キャンパス）	局長PTとして9月頃を目処に中期整備計画案策定	完了	事務局長招集のもとキャンパス中長期整備計画策定PTとして答申を策定。9月の理事會に報告された。 【キャンパス中長期整備計画策定PT概要】 学園のキャンパス中長期整備計画答申策定を目的として招集（全8回） 第1回 2010年11月8日 第2回 2010年12月20日 第3回 2011年2月7日 第4回 2011年3月7日 第5回 2011年4月18日 第6回 2011年5月25日 第7回 2011年7月13日 第8回 2011年9月2日	PTの答申に対して学園が将来のキャンパス構想をどう具現化していくのかは現時点では未知数である。そこで、当センターとしては現実的に予見できる範囲での修繕・建築計画モデルプラン策定に取り組みたい。特に十年來の課題である学内公有地（町田市所有）の払い下げについては町田市との協議の機会を確保し、より具体化できるよう尽力する。

4. エコ・キャンパスの実現

④ エコ・キャンパスの実現、面積あたりの消費エネルギーを5年間で10%削減。

主管部局（担当者）：キャンパスデザイン・管理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
キャンパスデザイン・管理センター	既存設備における非効率エネルギー源の省エネルギー化推進	一部完了	<p>幼稚園への電気冷暖房設置等軽微な対応は図れたが、3.11の「東日本大震災」の影響で、その他の非効率エネルギー源（ボイラーなど）を省エネ化することはできなかった。しかしながら、昨夏の電力使用制限令により町田キャンパスおよびPFCについては節電対策が本格的に行われたため電力使用量は減少する結果となった。一方、国際寮、多摩アカデミーヒルズが電力使用量を大幅に増加させているので、いかようにして減少傾向に転じさせるかが今後課題となる。</p> <p>【電力使用量増減状況（2011年実績－2010年実績）】</p> <p>〔町田キャンパス〕（桜寮除く） 5,814,518－7,823,563＝△2,009,045Kw</p> <p>〔PFC〕 733,928－857,052＝△123,070 Kw</p> <p>〔寮〕（桜寮、啐啄寮、国際寮） 946,983－640,388＝306,595 Kw</p> <p>〔多摩アカデミーヒルズ〕 1,832,064－871,728＝960,336 Kw</p> <p>〔学園全体〕 9,327,547－10,192,731＝△865,184 Kw</p>	非効率エネルギー源の省エネ化は建物の付帯設備の入れ替えが必要となる。その為、高額予算の獲得や長期間の工事日程確保が必要となるので、現実的にクリアしなければならぬ課題も多い。そこで昨夏に倣い、より節電に重点を置いた省エネ対策を行いたい。具体的には照明のLED化を積極的に推進していくことを優先していく。
中学校・高等学校	(1) エコ・キャンパスの実現 ①既設器具、採光、カーテンの工夫の継続	一部完了	(1)－①については、高校教室の廊下証明器具のエコ化（人感センサー）が完了したが、今後は高校校舎の教室以外の照明器具のエコ化、中学校舎の電球のLEDへの交換が必要である。また、採光、カーテンの工夫については、旧大志館の整備計画が固まり次第、検討する。他は未着手である。	2012年度中期目標に掲げている。

Cornerstone12：情報システムの高度化

1. 情報システムの安定稼働継続

① ソフトの更新、セキュリティ対策、安定的、効率的な稼働。

主管部局（担当者）：情報システムセンター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
情報システムセンター	<p>具体的実施計画は、取り組み結果の概要に対応している。</p>	<p>完了</p>	<p>主な計画案件と業務実績については以下のとおり。</p> <p>全体 [ネットワーク基盤]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保守切れ間近の教育系・事務系ファイアウォールの更新実施（4月完了） ・複雑化したIPアドレス体系の見直し案の策定（8月完了） ・IDとパスワードの統一化対象システム（Jネット他）の拡大（8月完了） ・ファイアウォールの設定に関する脆弱性診断の実施（8月完了） ・ネットワークとWebアプリに関する脆弱性診断の実施（1月完了） <p>大学 [ネットワークサービス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式Webサーバの可用性確保等を目的に外部クラウド化完了（8月完了） ・未整備であったSB館の基幹LANの設置完了（8月完了） ・未整備であったSB館の無線LANのサービス開始（9月完了） ・保守切れ間近の教育用ファイルサーバの更新と容量拡張（2月完了） ・学内サーバの運用性確保等を目的にサーバ仮想化基盤の拡張（1月完了） → 2台構成から4台構成となりより柔軟な運用が可能となる <p>大学 [クライアントサービス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学而館およびSACのPC約400台の最新化（WIN7化等）（3月完了） ・教室等のPC約1,000台のソフト・リフレッシュ作業の完了（3月完了） <p>大学 [アプリケーションサービス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した学生証発行機システムの更新完了（7月完了） ・保守切れ間近のe-Campusのバージョンアップの完了（8月完了） <p>中高 [クライアントサービス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した教職員用PC約100台の最新化（WIN7化等）（8月完了） ・避雷対策が見整備であった中高サーバ室の雷サージ対策実施（8月完了） 	<p>次の2案件については、「IPアドレス体系の見直し」を優先すべきとのコンサルティング会社からの提言を受け、次年度に繰越しとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット接続回線の増速と冗長化 ・教育系のコアスイッチの更新

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
中学校 ・ 高等学校	(1) 授業料収納システムの導入 継続 (2) 構内LAN配線継続 (3) 電子黒板等の機器の導入	一部 完了	(1) については、当面導入しない。 (2) については、計画を変更し、Wi-Fiを活用することを検討する。 (3) については、高校教室に4台導入した。次年度以降も増やす予定である。併せて、使用に関する教員への説明会を2度実施した。	2012年度中期目標に掲げている。

2. IT利用能力の向上

② IT利用に関する教職員能力向上プログラムの開発と実施。

主管部局（担当者）：情報システムセンター

関連部局：総務・人事センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
情報システムセンター	具体的実施計画は、取り組み結果の概要に対応している。	完了	主な計画案件と業務実績については以下のとおり。 全体 ・2012年度版ネットワーク利用ガイドの作成（3月完了） → 情報環境の利用者（教員・学生・職員）用に3種類 大学 ・教務系の職員研修会の実施（春学期）（5月完了） → 2回開催、延べ15人の参加 → 受講者の満足度4.7ポイント（注1） ・教務系の職員研修会の実施（秋学期）（12月完了） → 5回開催、延べ43人の参加 → 受講者の満足度4.7ポイント（注1） （注1）満足度ポイントの定義 強くそう思う 5 ややそう思う 4 どちらでもない 3 あまり同意できない 2 全く同意できない 1	特になし

3. 外部IT利用者支援

③ 外部利用者向けコンテンツ公開のシステム企画。

主管部局（担当者）：情報システムセンター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
情報システムセンター	2011年度の計画案件はなし		2011年度の計画案件はなし	特になし

4. 学内業務プログラムの革新

- ④ 教員業績管理システム、入試業務システム、教職員用グループウェアの整備、業務プロセスの効率化。

主管部局（担当者）：情報システムセンター

関連部局：教育・研究支援センター、入試広報センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
情報システムセンター	具体的実施計画は、取り組み結果の概要に対応している。	完了	主な計画案件と業務実績については以下のとおり。 大学 ・学生満足度調査の実施（7月完了） → 回収率7.4% ・学生満足度調査結果のクロス集計と学内広報（11月完了） ・授業評価アンケート（春学期）の実施とクロス集計（8月完了） → アンケートシート実績60千枚 ・授業評価アンケート（秋学期）の実施とクロス集計（2月完了） → アンケートシート実績58千枚	特になし

- ⑤ キャンパスカードシステムの開発、職員の勤怠管理、学生の出欠管理。

主管部局（担当者）：情報システムセンター

関連部局：教育・研究支援センター、総務・人事センター

→ 予算措置がなく、案件そのものが繰延となった。

5. 経営情報の提供

- ⑥ 経営判断に役立つ経営情報を提供できるシステム開発。

主管部局（担当者）：情報システムセンター

関連部局：財務・経理センター

担当部門	実施計画	取り組み結果	取り組み結果の概要	次年度への課題 その他
情報システムセンター	具体的実施計画は、取り組み結果の概要に対応している。	未着手	主な計画案件と業務実績については以下のとおり。 全体 ・基幹データベースの現状分析 → 他案件に優先的にマンパワー投入したことで担当の退職に伴い未着手	「基幹データベースの現状分析」については、担当者の退職等もあり着手時期について今後見直しが必要。